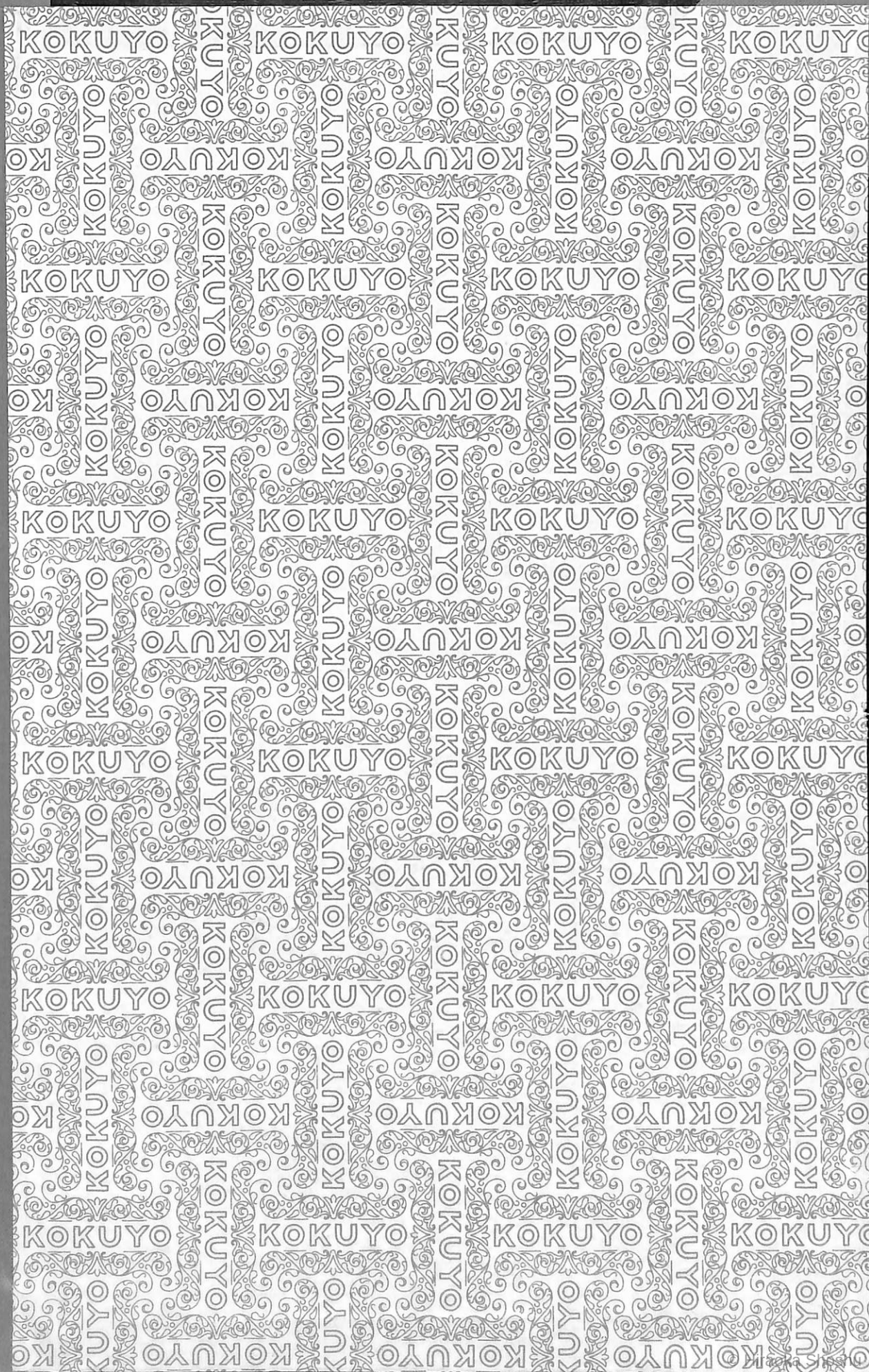
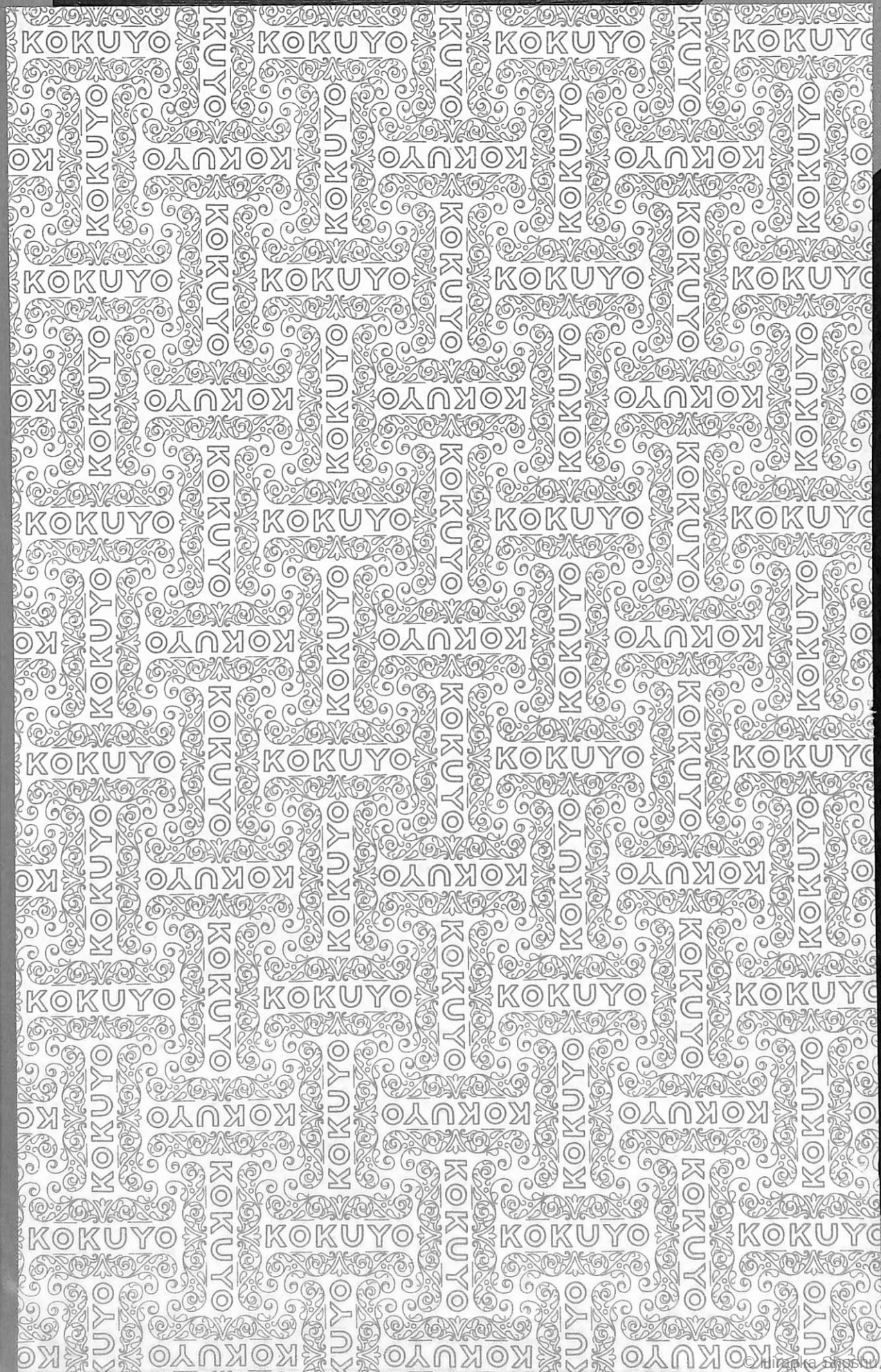


建表三



1199
1
1570





二校了

L 1179

P 60

函

号

冊

(年譜)

宗性上人関係資料集

20

25

諸字疑肉論義草校

え

○冊子本

113
20
45

(端書)

12

8
9

建長三年藤大納言為家八講宗性肉堅軍法印
肉信解品疏中付明四無根相且頂善根位可致無漏耶

(端書)

○前項ニ合

但し肉管ノ要スハ諸字疑肉論義校ナシ(113 18 22-16)ノ南辺顯本云々ト

異事ナキヲ以テ略ス

(端書)

○前項ニ合

但し肉管ノ要スハ諸字疑肉論義校ナシ(113 18 22-16)ノ大根清澤云々ト田長事ナ

キヲ以テ略ス

建長三年是月歲

昭和 年 月 日

二校了

L 1180

P61

函
号
册

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

原本(交)

○歡喜弄院御ハ講

諸字疑向海義校

十六

建長三年之中
自七月至冬

○冊子本

113
18
22-6

(端書)

建長三年歡喜弄院御ハ講字性向房満僧都

向経又云又復言其入於涅槃又說儒童入滅

答亦也

(端書) 前項ニ合

由法師功德品疏中云相似之位若依四輪即鐵輪位也

中可有鐵輪耶 答可有鐵輪也

○下略

○下略

建長三年 是歲

昭和 32 年 5 月 20 日調

二校了

1181

P.62

通
号
册

(年 譜)

宗性上人関係資料集原稿

25

諸字疑肉漏義草按

六

建長三年

冊子本

(端書)

歎

建長三年觀喜希陀師入講字性肉房刻僧都

○但し由卷ノ要又ハ諸字疑肉漏義草按ナシ(13 18 22-16)「法師功德品」ト

要事ナキヲ以テ略ス

113
20
9-5

建長三年

是歲

昭和 年 月 調

二校了

1182

P63

建長三年 是蒙

昭和 32 年 5 月 20 日 調

函 号 冊

(年 譜)

宗性上人関係資料集原稿

113
18
22-16

一 吉祥院 八講

諸字 疑肉 論義 抄

十六

建長三年 辛巳 月 至 年 冬

冊子本

(端書)

建長三年 吉祥院 八講 宗性 肉美 寫僧 都

因 經文 云 名々 脱身 所着 土衣 以供養 佛之 歟 何事 耶 答 訖

四衆 八部 見 舍利 弗 授 記 歡喜 相 如此 云也 下略

因 四大 聲聞 不 攸 阿耨 菩提 心 故 如何 說之 耶 進云 經文

云 我等 居僧 之首 耳 並 朽 墮 文 下略

原本 文 合了

原本(交令)

1183

二校了

p64

(端書)

6P

9P

9

諸字疑由編義抄

(端書)

6P

○北野五部大乘十講

建長三年之中
自七月至仲冬

○冊子本

113
18
22-16

建長三年北野五部大乘十講 宗性由美原僧都

問大品經中二十菩薩於賢劫中當授記之 釋尊授記於 進云

智論有二說中第二說云 或者有人云釋迦父佛今授記於賢劫

中在餘世界作佛又 〇下略

(端書) 〇前項三合

由般若經中可說三藏教耶 答不悅之也 〇下略

建長三年北野五部大乘十講 宗性由美原僧都

由釋尊過有七佛授記 答可七佛授也 〇下略

(端書) 〇前項三合

由成實論意道類智見修二道中何耶 答章安大師釋十大皆

建長三年 年是月歲日

昭和 32 年 5 月 調

No.

二校了

L 1184

P 65

建長三年是月日

昭和 32 年 5 月 20 日

函
号
冊

是見諦道也。下略

9 P

5

10

(年譜)

15

20

25

宗性上人関係資料集原稿

原本本文了

函
号
册

(年 譜)

宗性上人関係資料集原稿

15

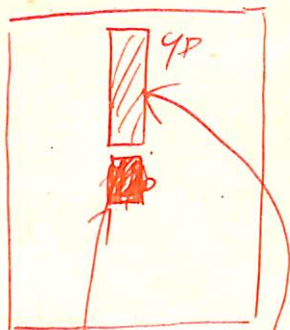
20

23

二校了

1185

P 1



8p

(表題)

白氏文集要文抄第一

自第卷
至第卷
第二十

(表題)

白氏文集要文抄

〇冊子本

8p

113
151
1

正月十三日

白氏文集要文抄ヲ抄ス

建長四年

子4

(二五二)

五十一歳

12p

8p

9p

(裏書)

白氏文集要文抄

(内題)

6p

8p

建長四年正月十三日抄之畢

建長四年一月十三日

法印宗性

権大僧都宗性

L

昭和

年

月 調

No.

二校了

L 1186

P

函
号
册

（綴目端書）

6
27

一 建長元年十二月十九日於法性寺宿所始之
建長四年正月十三日書寫了之
六十五
L

（年譜）

宗性上人關係資料集原稿

昭和
年
月
調

二校了

E 1187

P 2

建長四年正月十八日

昭和32年8月23日

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

原本校合了

正月十八日源通光遠忌八講 = 参考

諸字疑肉漏義校

十七

建長四年正月自正月至三月

〇冊子本

113
18
22-18

(端書)

16

8

当用

建長四年正月久我大相國通光忌辰八講宗性肉房洩僧都

肉宗家意澄田頓速疾義引不輕品何事耶答如身大師釋云

如常不輕々毀之衆只注四千億佛皆急得度云

〇下略

7P

端書。前項に合い

肉十六想觀俱可滅罪障耶答經文十六想觀中雖見不說

滅罪之旨以庚辰云之十六想觀俱可滅罪障也

二校了

函

号

冊

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

二月十五日 知足院別所ニテ天台宗疑箇論義用意抄ヲ抄ス

天台宗疑箇論義用意抄

〇冊子本

113
48
8-1

(表題)

表

天台宗疑箇論義用意抄第一

権大僧都宗性

(端書)

三十講余縁答

華度答

白度々出来

〇但し本書ノ奥書ナシ、
又同答ノ要文ハ略ス、

昭和 年 月 調

二校了了

1189

P

函
号
册

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

20

25

(紺背文書)

天台宗親肉論義用意抄

113
48
8-1

書目

大夫國夏水

乙皮籠納之

有宗雜論義抄四帖

有部雜要文抄一帖

波多抄要文抄一帖

俱舍論第六卷明思抄草一帖

俱舍論第七卷

○下欄筆

建永四年二月十五日

昭和 年 月 日

1190

二校了

P 2

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

5

10

15

20

25

〔天台宗疑問論義用意抄〕

○冊子本

113
48
8-2

(表題)

↑ 6 7/2

8

9

天台宗疑問論義用意抄第二

權大僧都宗性

(端書)

○下合

6 7/2

〔寶治元年宸勝講圓家問長俊大僧都〕

〔寶治元年宸勝講實靜向聖愚大僧都〕

〔寶治二年宸勝講聖顯向尊賢僧都〕

〔寶治四年法勝寺靜信向經海大僧都〕

〔寶治四年法勝寺靜信向經海大僧都〕

○但し本書、奥書ナシ、マタ問答、要文ハ略ス

昭和

年

月調

No.

二校了
P 3

L 1191

函
号
册

(綴目端書)

三
建長五年二月二日
西暦於東大寺尊勝院中堂東廊書之

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

昭和
年
月
日

二校了

P

L 1192

函
号
冊

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

20

25

天台宗疑由論義用意抄

三

〇冊子本

113
48
8-3

(表題)

↑ 6 R ↓

天台宗疑問誨義用意抄第三

権大僧都宗性

(端書)

〇宗性

6

嘉禄二 寂尋乘問隆誉大僧都

貞應二 法祐性問仲解律師

〇但し問答ノ要文ハ略ス

昭和
年
月
調

二校了

P 4

1193

(與書)

建長三年夏秋之比

於南都之學窓

北京之旅所

時々決筆漸

々抄之畢公私接論場之時南北致問答之間常對天台宗人

頻拳疑問仍自延曆寺智円清印之許動借得天台宗抄出之

次付自字有潤色之處々對他門可疑問之文々撰要處抄出

之畢而建長四年二月之候卜最寂靜之内居調散在之文釋

之次聚之乃一帖繼古号第三願以此誓古修學之微功必名

彼等尊値過之業因矣

于時建長四年子巳二月十五日巳於東大寺知足院別所草

卷

左筆記之

華嚴宗末葉法印字性

年於五十一

夏曆三十九

建長四年二月十五日

昭和 年 月 調

二校了

1194

P 5

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

20

23

天台宗疑同論義用意抄

四

○冊子本

113
48
8-4

(表題)

天台宗疑同論義用意抄第四

(圖書)

圖書

權大僧都宗性

建長三年初冬之候勤仕

土御門院聖慈御八講之時依有

其要自迄曆奔智因法印之許借得玄義第五卷抄出之次於

花洛五條坊内城宿所為備後日之疑同撰要處書字之畢

而建長四年二月之候卜寂莫之閑居調散在之文今自結集

以為一帖畢後覽之輩可哀其志矣

釋之次

于時

建長四年二月十五日於東大寺知足院別所草卷

右筆記之

華嚴宗奉華法印宗性

年五十一

夏曆三十九

建長四年二月十五日

8

二校了

L 1195

P 6

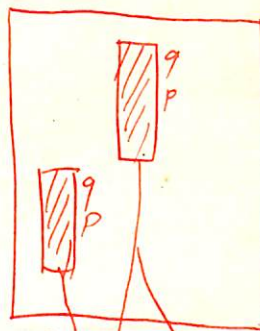
函
号
册

(年 譜)

宗性上人關係資料集原稿

20

25



天台字疑肉論義用意抄

五

冊子本

113
48
8-5

(表題)

天台字疑肉論義用意抄第五

權大僧都宗性

(與書)

建長四年七月二十一日時於土采坊岡坊域宿所馳筆畢

自去十八日被行 贈皇太后宮卿人講社延福寺信義法

印疑肉長時花嚴者方等般若外可有別座耶云論義之間

為披見彼論義文釋自延福寺智円諸印之許借請云義弟

十卷抄出之次至要論義聊所書也願以此一期暫古之

微功必彼三合得脫之良因矣

右筆華嚴宗貴王諸印宗性

建長四年二月十五日

昭和 年 月 調

二校了

L 1196

P 7

函
号
冊

建長四年二月十五日

昭和 年 月 日

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

(奥書)

637

建長四年十月十日時於五条坊城宿所書寫之畢自去七日

被行 土御内院御八講第三座對近曆寺經海法印疑問見

授記是第五段也云論義之間為故見彼論義又於自近曆寺

智円法印之許借清信解品用權顯實抄之次至要論義耶所

書出也願以此舊古修學之微功必為彼尊尊值遇之良因矣

右筆華嚴宗末葉法印宗性

年齡五十一

夏曆三十九

年齡五十一

夏曆三十九

東坡三十

書出也。張水九醫士。於此以爲。此書。與。此。書。二。書。因。其。書。田。所。印。三。所。皆。前。所。輯。品。用。此。題。其。姓。云。云。生。要。前。後。順。州。於。此。是。其。上。卷。也。云。前。後。三。向。云。於。此。是。於。前。後。人。於。自。上。卷。云。於。此。土。附。內。所。附。八。卷。其。三。卷。故。立。會。井。點。於。前。所。附。內。見。卷。五。四。早。十。月。十。日。於。此。止。事。女。姓。所。書。自。三。卷。自。上。卷。云。云。

頁三十九

卷之十一

二校了

P

1197

函
号
册

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

20

25

天台宗疑問論義用意抄

〇冊子本

113
78
8-6

(表題) 65

天台宗疑問論義用意抄

權大僧都宗性

(端書) 〇以下全い 65

建長元年仙洞寂勝講圓順向宇源法印
元久三年仙洞寂勝講聖覺向隆圓已講
建曆三年寂勝講經圓向顯尊大僧都
天福二年法勝寺重尊向信義僧都
嘉祿元年法勝寺良盛向賴兼律師

昭和
年
月
調

二校了

L 1198

P 8

函
号
冊

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

5

10

15

20

25

(奥書)

16

7

建長五年六月十四日^未時於東大寺尊勝院中堂正面披三畢
 去五月參勤仙洞最勝講之時自延曆寺智圓法印之許借請
 天台宗文獻之次不審之秋處々驚之至要之文少々寫之非
 不顧殘年之既迫雖不期後日之決擇引^被多^被年之餘執猶披
 天台之文執可悲何^被何^被焉仰願只以此替古修學之
 微功必^被彼上生內院之業因世々值遇尊生々習學佛教
 矣

右筆華嚴字末葉法印字性

年終五十二

夏曆滿四十

建長四年二月十五日

昭和
年

月調

L 1199

二校了
P 9

函
号
册

天台宗疑肉論義用意抄

(表題) 6 7

〇冊子本

113
48
8-1

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

天台宗疑肉論義用意抄第七
(奥書) 6 早

權大僧都宗性

建長五年七月五日^申於東大寺尊勝院中堂正面抄之畢

去五月仙洞寂勝構上^曆寺經海法印互為問答之時感

得金光明經所說三身中攝他受用身耶^云論義畢為引見

彼論義難答之趣自^曆寺智圓法印之^許借清止觀第六

卷抄出之次且為訪明匠之義^道通且為散愚昧之不審^要撰

論義聊前書道之也^下深雖悲一生之既迫猶被引多年之餘執

下抑江淡^忍染紫毫畢仰願只以此習浮佛教之微功必為彼

值遇慈尊之事因矣

建長四年二月十五日

昭和
年
月
日

函
号
册

二校了

1200

P 10

建長四年二月十九日

昭和 年 月 調

9

5

10

15

20

25

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

右筆花巖宗未葉法印宗性

年 齡 五 十 二

夏 鶺 滿 四 十

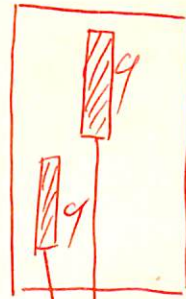
國
号
冊

二校了

1201

P 11

事目同
寺指圖法印



天台宗疑由論義用意按八

(表題)

607

〇冊子本

113
48
8-8

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

(奥書)

天台宗疑由論義用意按第八

權大僧都宗性

年

菴

文應元年庚戌六月二十日

時西

於東大寺知足院別所草馳筆畢

太上天皇名訪故大納言二品禪尼之菩提今年亦於仙音寺

欲被行御八講宗性即預彼申請書而今度者可非自宗回答

之由奉行權在中并雅言朝臣被披露公文從儀師實賢并申

送宗性對延曆寺信美法印可互為回答之由仍疑向論義之

處被考補處菩薩住兜率天間心經四十歲須通教之地已前

菩薩可有誓扶習生義耶云兩各論義之固為用彼疑向記錄

此難答願以此下愚之勤必為彼上生之業矣

建長四年二月十五日

昭和

年

月調

二校了

P12

1202

右筆華嚴宗末葉法印權大僧都宗性

年終五十九

夏曆四十七

此即人講六月二十五日六兩日可被行之由被仰下之

處依太上天皇御發心地事候令延引畢七月二十六

七兩日迄被果行之處宗性七月十九日不圖被補任東大

寺別當之間辭申此即人講不勤仕之仍此記録之勤願或

無用畢

文部二年西辛二月十八日持於東大寺知是所割所草菴飲

結集此雙紙之次必後覽記之矣

建長四年二月十五日

法印宗性

二校了

1203

P 13

函
号
冊

(年譜)

宗性上人關係

原本校了

二月三日後鳥羽天皇⁵國忌御入講ニ参ス

諸字疑肉滿教技

十七

建長四年之中
自正月至三月

○冊子本

113
18
22-17

端書

建長四年後鳥羽院御入講宗性肉房源大僧都

肉首楞嚴經所說四種授記今經中具可有耶答四種授記中

除蜜記餘記可有也

○下略

端書○前項ニ全シ

問化城喻品疏記中云論云初地見道又介者初地入住出三心

俱属見道位歟答初地入出可属見道也

○下略

建長四年二月五日

昭和32年5月23日調

二校了

1204

P 14

建表四年三月九日

昭和 年 月 日

夏曆三十九

年五十一

右筆華嚴字手葉法印字性

建表四年三月九日^時於東大寺尊勝院中堂正面書寫之^了
 去二月之候^{勤仕} 後鳥羽院御入講之時^{自延曆寺曆因法}
 印之許^{借得法華要文抄一帖之次}為備後覽撰要寫之畢^願
 以此法華習學結緣之微功^{必為彼修勤值遇得脫之業因}
 矣

權大僧都字性

法華經論義要文抄

(與書)

法華經論義要文抄

(中題) 6字

法華經論義要文抄

(表題)

〇冊子本

113
47
27

三月九日尊勝院中堂ニテ法華經論義要文抄ヲ抄ス

函
号
冊

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

○但之後島初天皇国忌御八樓ニ多スノ下二月二十二日ノ条ニ見ユ

頁四三十一

半部五十一

天

武事軍機子書出印

此九所半軍機子書出印

印之指部所事要入好一神三

五二月二所機出

五四月二三月一日

所事機機差要入好

(春)

所事機機差要入好

所事機機差要入好

○世本

三十一

三月九日軍機國中重二

所事機機差要入好

〔法華經海義要文抄〕

○冊子本

113
47
2-2

(表題)

法華經海義要文抄

(與書)

權大僧都宗性

法華經海義要文抄

(内題) 6冊

1205

二校了

P 15

建長四年三月九日

昭和 年 月 日

建長四年七月三日時於東大寺蓮勝院中堂正面書寫之畢
 去五月十九二十兩日勤仕弘誓院佛八講之時對延曆寺信
 美法印疑因法華經教主三身中為報身為當可應身耶佳果
 緣覺可末三周合座耶云論義之間為披見彼兩年論義文狀
 自延曆寺智山法印之許借情管見抄法華一并三周義上之
 次為自宗釋可備潤色之處々對他門人欲致疑因之文々擇
 要而耶寫之者繁而重抄之後從之輩可哀其志矣願以天台
 教文習學書寫之微功必為存勸美尊值遇結緣之良因焉

二校了

P16

1206

建長四年三月九日

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

抑今日者是法勝寺御入講之初日也。字性一座講師者。云室
治二年參勤已訖。澄義者撰未卒其望之間。此四年參仕
中絕畢。仍依有公請之隙。恐勵書寫之功。三室垂其哀。二世滿
其願而已。

右筆華嚴宗貫首法印字性

年齡五十一

夏曆三十九

昭和 年 月 調

二校了

1207

P17

建長四年三月二十三日

順
号
冊

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

三月二十三日、華勝院にて普賢講並華供養講私記ヲ抄ス。

普賢講并華供養講私記

〇冊子本

113
107
1

(表題)

(奥書)

普賢講并華供養講私記

權大僧都宗性

建長四年三月上旬、訛頼尊坊後擬得業令書寫之畢、寫本此
京五条坊内地藏堂別當興玄大進所周梨之本也。

同年三月二十三日、時於東大寺華勝院中堂正面、自加交
矣畢、後覽之輩可哀其志矣。

華嚴宗末葉法印宗性

年齡五十一

夏曆三十九

二校了

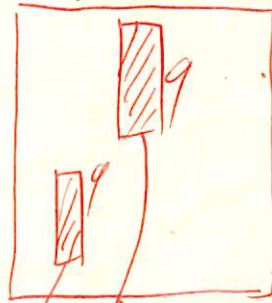
1238

P18

建長四年五月一日

昭和 年 月 日

建長四年五月一日 晒於東大寺尊勝院中堂正面 加一見之
次記之了
必當年仙洞寂勝講疑同也
法印字性



維摩經章安疏指示技
(奥書) ↑ 6 12 7

權大僧都字性

(表題) ↑ 6 12 7

維摩經章安疏指示技

○冊子本

113
74
1

五月一日 尊勝院 = 維摩經章安疏指示技 7 技 2

函
号
冊

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

二校了

1209

P 32 33

建長四年

是歲

昭和

32年5月23日調

〔宗性上人研究会〕

函
号
冊

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

原本校合了

九月十九日

玄誓院御入講

二卷

諸字疑肉論教

端書

建長四年三月
自正月至三月

〇冊子本

113
18
22-17

諸

建長四年三月玄誓院御入講字性肉信義法印

問法花教主三身中爲報身爲當可應身耶

答此事雖有學者

異義且可存應身云義也

〇下略

(端書) 〇前項三全

6年

問住果縁覺可末三周層座耶

答可有二義也

〇下略

〇但三月廿四日玄誓院御入講始に二法華経論義要文抄

(113 47 2-2)

一奥書二

見之、
見之、
見之、

(建長四年三月九日)

二校了

L 1210

P 19

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

20

21

是月 12/5

院最勝講ニ参ス

建長四年同寺

仙洞最勝講并番論義問答記

〇冊子本

113
30
4-2

建長四年仙洞家勝講問答記

奉行 手宰相進忠

澄義者

興福寺権別當権僧正親経

講師

法印前権大僧都智円

法印権大僧都宗性

権大僧都

定宗

房源

尊賢

範成

建長四年九月

昭和 年 月 調

二校了

1211

P20

函
号
冊

5

10

15

20

25

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

頼田

田守初

大律師

寛縁初

字澄二

本清講師法印前權大僧都信永法印權大僧都長俊

辨匠之處被召範成頼田了

起在廟成儀師清紹公文從儀師寛賢

初日朝座講師智田

向者宗性在表白

問經文。乾惠年十地中辟支佛地唯可限縁道所行耶

答可通縁道菩薩所行也

建長四年五月

昭和 年 月 調

1212

函
号
册

(年 普)

宗性上人関係資料集原稿

二校了

P 21

建長四年五月

左大將 雅

土御内 大納言 顯定

按察大納言 良教

定

此外花山院中納言師繼 手宰相惟忠着座

公卿

南白殿下雖有御着座 行香以前退出

行香 史願 明福寺權別當權僧正 執録

三礼 大律師 宗澄

呪

二校了

[1213

P22

函

号

册

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

三多大納言公親

權中納言冬忠

二条中納言賢季

近衛中納言公實

土御門中納言通行

葛庄講師宗性

同春智円

問、宗師所判中判可見有對等三種色且明并五根不可見有對

色可云耶、答、

下略

問、二乘聖者直悟入別教一乘可云耶、進云、宗家直不悟入尺

云々

建長四年九月

昭和 年 月 調

二校了

E 1214

P 23

函
号
册

第二日

朝庭講師室岸

由著彦源

夕庭講師彦源

由著定宗

第三日

朝庭講師尊賢

由著範成

暮庭講師範成

由著尊賢

第四日

朝庭講師頼田

由著田守

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

20

25

建永四年五月

昭和
年
月
調

頭
号
冊

(年 譜)
宗性上人關係資料集原稿

20

25

幕座講師田守

向者頼田

第五日

朝座講師道縁

向者宗澄

幕座講師宗澄

向者道縁

依必結座重難無之

行香

兜願

明福寺権別當権僧正執紼

三礼大講師

16 仰

○ 此下香梅義三カハ

○ 此下橋筆

17 仰

一番

眞急各

宗澄向

仰講衆互必向各

智田

宗性

定宗

房源

二校了

1215

P24

建長四年五月

二校了

1216

P25

9

建長四年五月

返向	四番	返向	三番	返向	第二番	返向	堂級	尊賢
公禪	公禪		顯高各		聖傲各	堂級	定澄	乾成
	良胤		聖顯		房盛	宗		賴田
	同		同		同			田

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

二校了

P 26

L 1217

函
号
冊

建表四年五月

○但之難答ノ要スルヲ略ス

返向

七番

行寛答

寛永向

返向

實

六番

庚寛答

長答向

返向

尊憲

五番

尊憲

答

房善向

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

L 1218

P 217

函

号

冊

(年)

宗性上人関係資料集原稿

20

25

諸御願已出華嚴宗滿義抄

上

〇冊子本

113
17
1

建長四年

初日暮庵講師法印權僧都宗性

肉者法印前權僧都智圓

肉字師所判中判可見有對等三種色且眼等五根不可見有対色

可云耶答今也。下略

肉二集聖者直信入別教二集可云耶

進云宗家直不信入然也

〇下略

17

二校了

建長四年五月

昭和 年 月 調

諸宗疑問論義校

建長四年
自正月 至六月

冊子本

113
18
21-16

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

25

用之了。宗性自筆。

夫今師願者講法性制底之效文一云云之遺塵雖古一談王法
正論之要義建長之紹隆猶新誠是探玄極淵之源也抑非
天長地久之基哉方今講匠天台明匠才鳳振翅一固者花嚴
囑庸才塞鴛庸蹄一守夏牆之次一猥當初由之仁

9

決

夫今師願者法性制底五日十座之講論顯效理於仙洞三月
大乘理奧三宗四寺之學侶扇智并於射山之風師願存新聲
曆漸舊誠是源極之源也抑非天長地久之基乎今講匠智
德內備才名外彰久積勤節之勞忽應證者之撥向者亞羊詞
短退鷗翹位恐少教青之功張拳南白之疑

建長四年五月

昭和

年

月調

二校了

1220

P 29

建長四年五月

昭和 32 年 5 月 23 日 調

順
号
冊

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

原本校合了

瑞書

↑ 8

建長四年仙洞寂勝講原性由智因法印

向講讚經中付説菩提薩埵修行相且執惠弄十地中聲辟支

佛地唯可限縁覚所引耶 答可通縁覚菩薩所行也

端書 〇前項三全

6 年

由宗師意身證不還中可有住果類耶

答可有二意也

〇下略

〇中略

二校了

1221

P 29 30

建長四年五月

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

仙洞最勝講疑由痴義用意教

冊子本

113
29
5-2

端書

建長四年仙洞最勝講字性肉智圓法印

自講讀經中付說賢聖功德且自證不還中可有作果類耶

答言有二意也

二枚
3

1222

P 3031

建長四年五月

昭和
年
月
日

建長四年仙洞最勝講之時智因法師印拳之未用之
肉字師解尺中云又陳轉法輪一處其三處決定今者所云
轉法輪者指初轉法輪處歟
即定乃至道車論一代故可不述
○下略

諸字疑肉論義本抄

(端書)

自建長三年
至同建長五年

○冊子本

113
19
9-17

未

二校了

1223

P 32

建長四年五月

國
号
冊

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

華嚴宗文義校

○冊子本

13

121
34
1

(端書)

建長四年仙洞寂勝講智円肉字

肉探玄記中可見有對等三類色相今者明等五根不可見有對

色相答探玄記解尺中不可見有對色中雖不伴眼等五根

物論其能者眼等五根是不可見有對色又下略

昭和
年
月
調

二校了

1224

P 3334

函
号
冊

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

原本校了

是月 中川八講ニ参る

諸字疑肉論義校

端書

建長四年之中
自正月至三月

〇冊子本

113
18
22-17

建長四年中川八講宗性肉定宗大僧都

問譬喻品中佛為舍利弗尊者授當作佛記別又 尔者同名菩薩

同可得授記耶 答可得授記也

〇下略

(端書) 〇前項ニ全

肉在嚴論中明轉識得智相云轉五識得故觀察智轉第六識得

成所作智又 尔者通州大師如何釋之耶 答義燈有二釈初

釋云一々在嚴不依次說非言轉六界或事智故不相違又第

二釋云庄嚴論中據第六識能作神通等諸成業云得事智五

識目位不觀摩果位才能云得觀察故亦不違又 〇下略

建長四年五月

昭和 32 年 2 月 調

二校了

1225

P 74 35

函
号
冊

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

原本校了

(端書) 〇前項ニ合シ

問經文云其五百阿羅漢云尔者五百阿羅漢為千二百聲聞内

為當如何 答云賛中有二釋以千二百中云釋為正也

〇中略

(端書) 〇前項ニ合シ

問大品經所說乾惠菩十地中前七地可含大乗耶 答可有二

意也 〇中略

建長四年九月

昭和 32 年 8 月 23 日調

二校了

1226

P36

(奥書)

對法抄二

握尺三

智論七十五

可見之

建長四年中川八講之時長弘得業注送之

昭和

年

月調

6年

9

内付觀等十地者第九地并唯為取歡口十地今者可取勝解
行地次進云尺此事迴取勝解行地

○中畧

7

(端書)

6年

○下略

7

三乘共十地

握尺第三

運長四年中川八講之時長弘得業所勘送也

諸字疑向論義本抄

八

自建長三年
至同五年

○冊子本

113

19

9-17

(年譜)

宗性上人關係資料

校了

二校了

P. 37

1227

建長四年五月

昭和
年
月
日

函
号
冊

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

諸字疑由論義草抄

(端書)

建長四年

〇冊子本

113
20
9-6

建長四年五月中川ハ講宗性由定字大僧都

〇但し同卷ノ要スハ諸字疑由論義抄十七(113 18-22)「在唐論云々」ト異事
ナキ以テ略ス

1228

P38

國
号
冊

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

六月上旬尊勝院¹² 住果四覺抄¹⁰ 了¹⁵

住果緣覺抄¹²

(表題) ↑ 6 早

○冊子本

113
91
1

住果緣覺抄⁷

(奥書) ↑ 6 早

權大僧都宗性

建長四年林鐘上旬於東大寺尊勝院中堂正面馳筆畢
五月十九二十兩日 34 誓院御八講華日被出題之時第一

卷内題被出住果緣覺可末三周會座之滿義而宗性討信義
法印勤仕初座内者之間今此論義抄出并文集借請近曆寺
智因法印加一見之次為備後覽聊所書寫也抄出并文集
写本雖多別帖為易披見結集一帖後覽之輩可哀其志矣
願以天台教文習学書寫之微功必為弥勒慈尊值遇結縁之

建長四年六月上旬

昭和
年
月
調

二校了

1229

P34

達長四年二月上旬

昭和 年 月 調

但し 個 弘誓院御八幡ニ今スルニト 五月十九日一季三見ニ

8

夏曆三十九

年 齡 五十一

右筆華嚴宗末華法印宗性

良因寺

5

10

15

20

25

函
号
冊

(年 譜)

宗性上人關係資料集原稿

二校了

1230

P 40

函
号
册

六月十七日 尊勝院ニテ法華教主抄ヲ抄ス。

法華教主抄

(表題)

○冊子本

113
63
7

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

法華教主抄

(奥書)

權大僧都字性

建長四年六月十七日 時於東大寺尊勝院中堂正面馳筆畢

去五月十九、二十兩日 弘誓院御八講兼日被出由題之時第一

卷由題被出法花教主三身中為報身為當可應身耶云論義

而字性对信義法印勤仕初座由者之間今此論義抄出并又

集軍本雖為別帳為易借請延曆寺智因法印加一見之次為

備後覽耶所書由也抄出并文集写本雖為別帳為易披見結

集一帖後覽之輩可哀其志矣願以此天台文釋習學之微功

建長四年六月十七日

昭和 年 月 調

二校了

1231

P41

國
号
冊

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

5

10

15

20

25

必多彼 弥勒為尊値遇之良因矣

右筆華嚴厚末葉法印字性

年齡五十一

夏藤三十九

〇但し、弘誓院ハ構ニ多スルニト五月十九日ノ条ニ見ユ

建長四年六月十七日

昭和
年
月
調

二校了

1232

P42

建長四年之月

昭和32年3月23日調

建長四年六月西人条八講宗性肉定解法印
向千二百聲聞俱在座預記別致 答介也 〇下略
(端書) 〇前坂三合
肉依法花受持力即可持事戒品耶 答可持之也 〇下略

(端書)

諸宗疑問論義抄上

建長四年之中
自正月至六月

〇冊子本

113
18
22-17

函

号

冊

是月西人条八講ニ参ス

(年譜)

宗性上

原本校合了

集原稿

二校了

1256

119

P 16

七月十八日贈皇太后宮御人講

宗性上人關係資料集原稿

贈皇太后宮御人講

諸淳疑肉論義校

十八

建長四年三月
自七月至十月

冊子本

113
19
2278

端書

建長四年贈皇太后宮御人講字性肉信義法印

肉經文云如來法輪相如是又此又歎能化法輪相次

講答云如經見又者歎能化如來法輪相見但山家大師釋云

言如來法輪相如是者此一句結歎所化法輪相又此釋意如

來所說法輪轉輪入所化衆生身中令摧破或障故亦名所化法

輪也

○下略

瑞書。前項ニ合

問字師釋摩訶般若花嚴海空經文云又花嚴時節長文

長時花嚴者方華般若外可有別座耶講答云此事古

來學者雖存異義暫可存別座之義也其故

○下略

昭和32年12月調

二枚了

1257

P 57

建長四年是月歲由

昭和 年 月 日

函 号 冊

(年 譜)

宗性上人關係資料集

校了

諸字疑由論義本抄

(端書)

↑ 6 早

自建長三年
至同五年

○ 冊子本

113
19
9-17

永

畢

建長四年贈皇太后宮御人講之時
智因法印奉之
即對信兼法印用之

向長時
華嚴方等般若時
另有別座

下略

二校了

1233

P 58

題

号

冊

七月正月

藤原顯氏八講ニ参る

諸字疑由論義按十八

建長四年之序
自七月至申冬

〇冊子本

113
18
22-18

端書

↑ 6 年

建長四年藤三品顯氏八講字性尚定因律師

肉不輕品对信得大勢菩薩者大勢至菩薩歟 答也

端書 〇前項三合

6 年

憲 作

肉某王品經中一切衆生善見菩薩入現一切色身三昧而曼陀

羅花華供養日月淨明德佛及法花經 介者不動本座而

曼陀羅華歟 〇下略 7 年

建長四年 七月

昭和 年 月 調

函
号
冊

二校了

1234

P 59

建長四年是歲

昭和
年
月
日

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

諸字疑問論義草稿

(端書)

16年

建長四年

〇冊子本

113
20
9-6

建長四年七月藤三品顯氏ハ講字性問定圓律師

〇但し問答ノ要之ハ諸字疑問論義草稿十八(1318)「一切衆生」ノ「具事」

ヲ以テ略ス

八月二十八日知足院良庵入寂

啓白至要抄三冊子本

113
108
2-2

連表四年十月三日知足院信願卿房五七日佛事談經圍書

卿導師賴覺律師

阿阇陀者梵語此云無量壽
無量壽者通三身故今陵大

師狀云無量壽者通三佛故云
法身報身無量壽其義可知

○中略

此即佛生師同墨書候中
尤可為聖德太子

○下略

一日經事

○下略

施主段

四十八齋居表阿阇陀四十八願
六月二日初卜閑居是持大師

二校了

P 1

昭和
年
月
調

二校了
P 2

函
号
冊

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

5

10

15

20

25

返安養往生之日也依彼引據可遂素懷云事必然也
十二年龍居者同道如禪師之往生八月二十日逝去者
大似、

○中略

二十年給仕ヤキタラス被男食ケルニソ候也
建長四年十月四日酉時於東大寺尊勝院中堂東廊隨
男去記之

法印宗性

昭和 年 月 調

二校了3
P

1237

函
号
冊

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

20

25

最勝講問答記

○母子本

113
31
63

聽衆

入道前丹波守成實

良遍興新廿

招提千歳傳記

中二

續群書類従本

明律篇

生馬山大聖竹林弁信願遍大僧都傳

大僧都諱良通字信願又名蓮阿公京兆藤氏。中略南法白毫寺。

又住勝願院。於相宗學究盡其奧尤以因明淨達其底。中略

其年中名權大僧都。嘗居興福庵講屋著書凡百餘卷。貞小

元年師四十八歲嘉道于生馬山竹林寺。中略其某年中興東大

昭和 年 月 調

1238

二校了

P

函
号
册

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

9
于竹林寺
知足院建長四年八月廿八日
安然而化享年五十又九
建塔
〇下略

5

10

15

20

25

昭和
年
月
調

八月 是月 淨土寺八講ニ参ス

諸字疑由論義抄

ハ

○冊子本

113
19
9-17

(端書)

建長四年八月 淨土寺八講之時 智因法印奉三未用之

向商卷解尺中 明七口道品以八正七覺対見修二道欽今者

付初住口生道品 妙身大師如何尺耶

○下略

(端書)

建長四年八月 淨土寺八講之時 智因法印奉三 未用之

向本疏璣經中說六輪相 然者以摩尼輪水精輪相配等覺妙

覺欽

進云 道暹師合并妙為摩尼輪見

○下略

1240

P 43

九月十三日當麻寺ニテ當麻曼陀羅緣起ヲ見ル

當麻曼陀羅緣起

與書

建長四年九月十三日參詣當麻寺拜見極樂曼陀羅之時

彼寺住僧發願房之口狀如此也即於彼曼陀羅之前

取外懷中之疊紙記錄之畢彼所記錄之本紙筆跡狼藉之

間多備後覽重所清書也三遍諸天哀愍我志而已

于時同年同月二十二日聯於東大寺尊勝院中堂東房記

録之畢

右筆花嚴寺主葉法印厚性

建長四年九月十三日

昭和 年 月 調

二校了

1241

P 44

建長四年十月

○下略

建長四年十月坊城殿御入講宗性肉縫海法印了

(端書)

諸宗疑肉論義草按

建長四年

○冊子本

113
20
9-6

十月
是月

坊城殿御入講ニ参る

十月七日坊城殿御入講ニ参る

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

昭和 年 月 調

函
号
冊

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

25

十一月十五日尊勝院ニテ維摩經安疏要文抄ヲ抄ス

維摩經章安疏要文抄

○冊子本

113
75
4-1

(表題) 6 冊

維摩經章安疏要文抄第一

權大僧都宗性

(真書) 6 冊

建長四年秋冬之候於東大寺尊勝院中堂東廊抄之畢

近年常被臣仙洞最勝講之慶天台宗海義頗依為難得為

授求之雖抄出之其功不終此勤退轉年來之間打拵置之而

悲年齒之開七旬願餘年之迫一瞬之上去二十三日不圖後

年來弟字專法師畢哀傷銘肝悲歎徹骨之間決擇之勤於

茲甚倦仍如此又藉所調帶置之也於勤忘尊必垂哀賜厚亡

二校了

1242

P 45

建長四年十月二十五日

昭和 年 月 調

二校了

1243

P

函
号
冊

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

魂於夷率内院之雲遂再會於藤華聽法之庭而已
又永四年卯之月二十之日昧於東大寺知足庵草菴結集之
次自始至今之子細記錄之矣

右筆華嚴字未葉法印釋宗性

年終之十六

貞龍五十四

二校了

P

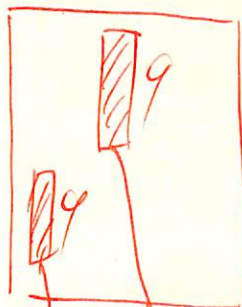
46

1244

建長四年十一月二十日

昭和 年 月 調

○但し本書ノ奥書ハ維摩經章句疏要文抄第二(113頁)ト異事ナキヲ以テ略ス。



維摩經章句疏要文抄第二

權大僧都宗性

(表題)

↑ 6 号

維摩經章句疏要文抄

○冊子本

113
75
4-2

函
号
冊

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

20

25

二校了

P

1245

函
号
冊

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

23

維摩經章句疏要文抄
三
〇冊子本
113
75
43

維摩經章句疏要文抄第三

權大僧都宗性

〇但ニ本書ノ奥書ハ維摩經章句疏要文抄第二(13外4)ト異事ナキヲ以テ略ス

昭和
年
月
日

函
号
冊

二校了

1246

P48

自始至今之子細記録之矣

相筆華嚴宗東華法師秋律性

年終六十

真臘五十四

維摩經章安疏要文抄

四〇冊子本

113
75
44

(表題)

維摩經章安疏要文抄第四

雄大僧都宗性

(奥書)

建長四年十一月二十五日

時於東大寺尊勝院

東廊東

廊抄之畢近日常被臣

仙洞靈勝講之處天台宗滿載

建長四年十一月二十五日

昭和 年 月 日

函
号
册

二校了

1247

p49

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

願依為難得必撰求之雖抄出之大部之書其功難終懈怠
 之身此斯返轉十六年向并置此書而非年齒之東七旬
 顧餘年迫一瞬之上去二十三日不慮後年來向弟宗專法
 師畢老傷銘肝悲歎徹骨之向決擇之勤甚以厭倦仍如此
 之藉可調置之也亦勒為尊必垂哀慈每亡魂於與存內隔
 之雲遙再會於旋華聽法之庭而已

文正四年丁六月二十三日申時於東大寺知是陽草庵結集
 之次自始望今之子細記錄之矣

右筆華嚴字末華法印秋宗性

年終六十六

建長四年十月二十五日

夏隨五十四

二校了

1248

P

國
号
冊

(綴目端書)
6年5

百三

建長四年十月二十五日昧於東大寺尊勝院中堂東廊抄了。

宗性

(紙背無書)
6年5

建長四年黃鐘二日昧於東大寺尊勝院中堂東廊欲結集。

此雙紙之次為後賢記之而已。

宗性

建長四年黃鐘二日昧於東大寺尊勝院中堂東廊結集此雙

紙之次且為南滿義之題且為最後字之不審雖似自稱左筆記

之全不期名糾併迴向菩提而已。

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

昭和
年
月
日

No.

二校了

[1249]

P

函
号
冊

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

華嚴序末葉大和崗宗性

9⁵

昭和
年
月
日

二校了

1250

P 50

唐長四句
是歲

昭和 32 年 5 月 23 日 調

9
向經文云世尊甚希有令我念過去又說何事耶進云阿難尊者
者庫佛顯阿難本令念過去云此文意也
○下略 1P

(端書)

○前項ニ合

6 1P

不末坐也

○下略 1P

9
向經文付說三变土田相且第二变時分身諸佛可末坐耶
答
建長四年廣隆寺上野八講宗性肉宗并僧都

(端書)

1P

諸原系肉論義校

1P

建長四年正月
自正月至三月

○冊子本

113
18
22-17

廣隆寺上野八講

(晋一之月)

(年譜)

宗性上人關係

原本校合了

1251

二校了

P. 51

建長四年
十一日 星歲

昭和
32年
5月
23日
調

9. 問經文說舍利弗尊者授記相云過無量無邊不可思議劫又成佛以前却數悉說之歟。答可有二意也。○下略。7p
(端書) ○前項三合心
9. 問譬喻品云梵中云華嚴經初說有舍利弗又今此初說舍利弗今經所說舍利弗同歟。答別人也。○下略。7p

(端書)

諸宗疑由海義校

建長四年之中
自正月至三月

○冊子本

113
18
22-17

○成恩院御八講

函
号
冊

(年譜)

宗性上人

原本校合了

原稿

二校了

1252

P52

建長四年

是歲

昭和

32

年

月調

(年譜)

宗性上人関

原本校合了

報恩院御入講

諸字疑由論義校

(端書)

建長四年報恩院御入講宗性向字辨法印

向經又付説下根聲聞授記作佛相且衆人盡知已不知授記今

經中可有耶答不可有也

○下略

(端書) ○前項三合

向山海惠自在通王佛一佛名字歟

答介也

○下略

○冊子本

113
18
22-17

二校了

L 1253

P 53

建長四年正月

函
号
冊



(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

20

25

○藤原実持八講

諸字系肉論義校

建長四年三月
自正月迄三月

○冊子本

113
18
22-17

(端書)

建長四年清水谷大納言実持八講宗性肉智丹法印

肉經文云世尊知我心按邪說涅槃我急除邪見於空法得證入

顯何事耶答說舍利弗尊者昔相如此云也

○下略

(端書) ○前項三合

肉經文云佛勅我輩悅寂上道之顯何事耶

答說此輩轉教

相如此云也

○下略

函
号
冊

二校了

P 54

1254

建長四年

是歲

昭和

32年5月23日

(七月十一日)

(年譜)

宗性上人關係

原本校合了

巨松尾山莊八講

諸字疑由論義按

(端書)

建長四年之中
自七月至申冬

冊子本

113
18
22-18

建長四年松尾山莊八講
宗性由房淵僧都

由庫本内尋量說得妙賞益類可有耶
答難測也

(端書) 前項三合

向法師功德品疏中付明六根能盈能縮能等義
今者能等義出

何經耶 答宗師判
正法花智足具六千功德不備上中下出

正法花注釈也

二校了

1255

P 55

建長四年
是歲

9
肉見行者唯限利根歟

答可有二意也

○下略

9
肉壽量品疏中明釋尊因位超九劫相今者所云九劫者指弗沙
讚嘆時所超九劫歟

答今也

○下略

端書
○前項三合

7
建長四年西宮八講宗性肉承厚僧都

端書

諸字疑肉論義歟

十八
建長四年之中
自三月至中冬

○冊子本

113
18
22-18

西宮八講

函
号
冊

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

二校了

1258

P 60

建長四年是歲

昭和 年 月 日

函 号 冊

(年 譜)

宗性上人關係資料集原稿

20

25

○民部卿為家人講

諸宗疑問論義草抄

建長四年

○冊子本

113

20

9-6

(端書)

↑ 6 2 4

8

8

建長四年民部卿為家人講字性肉房源大僧都

肉經文

云羅睺羅密行唯我能知之文

所云密行者指何行耶

進云貝大師解狀以持戒為密行判也

下略

(端書)

○前項ニ全シ

6 2 4

肉經文

云一切菩薩阿耨耨多羅三藐三菩提皆為此經文

所云菩提者權實中何耶

進云權實中何耶

下略

二校了

1259

P 61

國
号
冊

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

15

20

25

○北野五部大衆十講

天台宗論義本抄

(端書)

○冊子本

103
12
4-2

建長四年北野五部大衆十講宗性由長俊法印

向宗師或處四无量等果報至下三无色引判今者約衆生緣

无量心判此義一歟

○下略

建長四年是歲

昭和
年
月
調

函
号
册

二校了

1260

P /

建表五年二月二十三日

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

建表五年
丑癸
(三十三)

(五十三歳)

二月二十三日 中限ニテ 啓白釋經本抄ヲ抄ス

啓白釋經本抄

○卷子本

103
10
1

(表題)

啓白釋經本抄

(奥書)

沙門釋宗性

建表五年二月二十三日 暁於東大寺中限ノ臥病席加一
見了

法印宗性

年五十二

夏臘満四十

二校了

[1261

p 2

建長五年三月二日

左筆華嚴宗末葉清印宗性

昭和 年 月 調

建長五年三月二日昧於東大寺尊勝院中堂正面申出光明
陌上細覺遍滿之即自筆草本馳筆畢
抑宗性童病未及平愈身心頗雖微劣空依暮春日聊所馳秋
毫也仰願地藏菩薩伏乞三寶諸天照見此功哀賜其志一期
終焉之暮必遂免率內院三層下生之曉速授唯心清門而已

(與書) ↑ 6 早

地藏菩薩感應抄

權大僧都宗性

(表題) ↑ 6 早

地藏菩薩感應抄

○冊子本

113
92
1

三月二日尊勝院中堂二丁地藏菩薩感應抄ヲ抄ス

函
号
冊

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

二校了

[1262

P 3

建永五年三月二日

昭和 年 月 日

函
号
冊

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

4
夏藤満四十
年終五十二

三月二十三日 尊勝院中堂ニテ法華經并阿弥陀經釋ヲ披

ス。

〔法華經并阿弥陀經釋〕

〇冊子本

113
54
1

表題) ↑ 6 年

法華經并阿弥陀經釋

権大僧都宗性

内題
阿弥陀經略釋

(圖書)

刑部少輔

此釈為太原宗性入道毎月為光曉供養自筆阿弥陀經草

送之畢

二校了
P

1263

昭和
年
月
調

二校了

1264

P

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

(奥書) ↑ 6 早

此釋依無動寺檢校意田法印二十五三昧衆上兼善釋注進
畢波男畢

(奥書) ↑ 6 早

此釋左兵衛督爲大原土佐内侍供養自事阿弥陀經作善
之次所草也

(奥書) ↑ 6 早

此釈上西門院一品經供養以五宮御牛跡綴成徽假若阿弥
陀經致供養之時案之畢頗非神效

(内題) ↑ 6 早

阿弥陀經略釈

阿弥陀經釋篇令隨時

昭和 年 月 調

二校了

1265

P. 6

建長三年三月二十三日

昭和 年 月 調

函

号

冊

(奥書)

下 127

建長五年三月二十三日 東大寺華勝院中堂正面書寫之

畢 寫本者光明殿上細賞遍之御本也 而去年之天中冬之役

於賴宣律師之許勤仕唱導之時申出之畢數月申罷之余依

有其恐 今欲返上之因 爲後覽所馳筆也 後覽之輩可哀其志

也 而已

右筆花嚴字末華法印字性

年 齡 五 十 二

夏 藹 滿 四 十

二校了

1266

P

法勝寺

(紺背文書)

宗性 法印権大僧都

右依 院宣奉請自未丑月一日被始御卅講證義者如件

建長五年四月十三日 公文從儀師

丑月一日 法勝寺卅講證義者ノ請ヲ受ク

諸宗疑問論義草抄

〇冊子本

113
20
9-17

建長五年

8

9

宗性上人關係資料集原稿

20

25

建長五年五月一日

昭和
年
月
日

二校了

1267

P 17

函
号
冊

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

五月四日 廨最勝講文番海義二卷

百鍊抄

○五月四日辛巳、廨最勝講始也、撰政已下参之

仙洞最勝講并番海義同答記

○冊子本

113
30
4-2

建長五年仙洞最勝講内答記

建長五年
同三年

奉行 平宰相惟忠

爲在廳威儀師清
公文從儀師實賢

澄義者

法印前權大僧都内順

良盛

講師

建長五年五月四日

昭和
年
月
調

1133

二校了

1288

113
30
4-2

建長寺史記

建長寺

五月四日

權中納言師繼

堀川中納言基具

一條大納言公持

源大納言通成

二條中納言資子

攝政兼平

右大臣宣雅

按察大納言良教

公卿

行香史願

法印前權大僧都円順

三礼大律師定禪

朝座講師良盛

内者長俊

大律師任親

定禪初

權少僧都

聖雲

權大僧都実性

宗舜

長俊

経海

良盛

法印權大僧都宗性

東大寺圖書館

二校了

1269

P 9

建長五年九月四日

昭和 年 月 調

函 号 冊

(年 譜)

宗性上人關係資料集原稿

暮座講師宗性

肉者經海

常用

肉經又云 宗師依金光明經所說判三身功德一尔者今此

三身也。據他受用報身一可云耶。答三身中應身者可他受用

身也。下略

問宗師依諸師意一判教相一且依智者大師意如何判頓教

相一可云耶。答以別教者頓教下也。下略

12.7

12.7

12.7

12.7

12.7

二校了

P10

L 1270

函

号

册

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

5

10

15

20

25

第二日

朝座講師長俊

因者表盛

暮座講師經海

因者字性

問講讀經中付說善弄三性法門且末師秋吳熟威儀工汚通果

四無記心相云通果者亦名变化無記介者通果心所化事

可巨眼弄土根色弄土塵耶

答

○下略

肉難心論意可許欲界有定義耶答不許之也

巧

解

建長五年五月四日

昭和 年 月 調

建永五年
二校了
五月四日

1271

P //

9

第三日

朝座講師 聖憲

由者 實性

暮座講師 實性

由者 聖憲

第四日

朝座講師

兼源

由者

宗

暮座講師 定禪

由者 永源

兼

第五日

朝座講師 任親

由者 定禪

暮座講師 定禪

由者 任親

仙舟結座 重難者之了

行香

足願法印前權大僧都田順

三乳大法師定禪

公卿

兄

全用

左大臣道良

權中納言師繼

源中納言雅家

平宰相惟忠

左兵衛督為氏

松殿三位中將良繼

兵部卿 庚澄

新宰相親賴

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

113
30
40-2

1272

二校了

12

9

建長五年四月

香海義内答記 印講第三日夕座以後被推行之

着座僧綱

法印前權大僧都内順

良盛番役勤仕之

法印權大僧都

宗性

長俊實

聖憲

權大僧都庚性

美

權少僧都

永成

空舜

宗

論匠衆

任親己講

寺廿七

空禪己講

山廿五

彦盛阿闍梨

寂勝講聽衆

尊憲得奉

興廿七

寂勝講聽衆

實實得奉

興廿七

寂勝講聽衆

源覺阿闍梨

山廿七

非聽衆

良胤阿闍梨

寺廿六

油勝寺御入講聽衆

高阿闍梨

寺廿四

寂勝講聽衆

建長五年五月四日

東大寺圖書館

1138

1273

二校了

3

建毛五

行寬釋擬得掌

土興

去年御海義參勤

澄

房

阿闍梨

寺廿九

清勝寺

八溝

點衆

直忠得掌

東廿九

非點衆

非點衆

非點衆

澄

房

阿闍梨

寺廿九

清勝寺

八溝

點衆

直忠得掌

東廿九

非點衆

非點衆

非點衆

公海阿闍梨

五十八

非點衆

侍懶阿闍梨

五十八

非點衆

一番任親答

定禪問

返問

任親

二番房盛答

尊要問

返問

房盛

三番

實實

實實

顯高問

返問

實實

四番

良胤答

孫實問

建長五年八月四日

東大寺圖書館

二校了

1274

P 14

建永五年五月四日

返向 良胤
五番 房喜 答 澄源向
返向 房喜
六番 行實 答 公海向
返向 行實
七番 道忠 答 信愉向
返向 道忠

頭
号
冊

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

15

20

25

昭和
年
月
調

二校了

1275

P 15

建長五年五月四日

当用

昭和 年 月 調

端書

↑ 6 5 4

建長五年仙洞經海向宗性

新四季講勘文技

↑ 8 7 6 5 4

冊子本

113
22
12-6

向宗師依諸師意判教相且依智者大師意如何判頓教相耶
答以別教名頓教然也○下略

向宗師依金光明經所說判三身功德今者今此三身提他受用
報身可云耶 答三身中應身者可他受用身也○下略

初日暮座講法印權大像都宗性 向者法印權大像都經海

建長五年

○中畧

師腹

仙洞目取勝講

諸御願已出華嚴宗論義技上

○冊子本

113
17
1

自永保三年夏
至文永三年夏

8p

宗性上人關係資料集原稿

仙洞宸勝講疑向海義按

〇冊子本

113
35
1

(端書) 下 6 13

建長五年仙洞宸勝講 厚性由經海法印

問經文。且末師釋異契威儀工巧通果四無記心相云通果者

亦名变化無記文 今者通果心所化事可直眼等五根色等五

塵耶 答可直五根五塵也 〇下略 7p 当用

建長五年仙洞宸勝講 厚性由經海法印

向難心論意可許欲界有定義耶 答不許此義也

〇下略 7p

二校了

1277

P/6

康長五年五月四日

昭和32年1月24日調

建長五年仙洞寂勝講宗性由經海清印
 向難心論意可許欲界有定義耶 答不許此義也。○下略
 (端書) ○前項ニ合い 7p
 向經文。且末師釋異。更盛儀工巧通果四無記心相云。通果
 者如亦名变化無記文。介者通果心所化事可亘眼華五根色
 華五塵耶。答可亘五根五塵也。○下略 7p

諸宗疑向論義按

十九

○冊子本

建長五年三月至六月

113
18
2249

端書 16年

当用

宗性上人

原本校了

二校了

1278

P 17

建長五年五月四日

昭和 年 月 日

函
号
冊

(年・譜)

宗性上人関係資料集原稿

諸字疑肉論義本抄

自建長三年
至同五年

〇冊子本

113

22/9

9-17

端書

建長五年仙洞景勝講之時 智山法印注送也

〇中略

(奥書)

建長五年仙洞景勝講之時 智山法印注送也

〇中畧

己上建長五年五月之比 不空羅摩經已下 諸文經海法印所
勘送也

函
号
冊

二校了

1279

P18

建長五年五月四日

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

諸字疑由論義草拔

建長五年

冊子本

113
20
9-17

端書

建長五年仙洞最勝講之時用意之畢

由講濟經又付說三乘修行相且乳惠等十地中人人地者

可互見道十五心耶

卷可互也

端書

建長五年仙洞最勝講之時用意之

由楞伽經所說第九識能取真如故為當取有為智品歟

下略

端書

建長五年仙洞最勝講字性由經海法印

但此由卷ノ要文ハ諸字疑由論義草拔十九(13)中異然更無云々

ト異事ナキヲ以テ略ス

二校了

(端書) 前項三全

肉韃心論意欲界可有修惠耶

答不可有修惠也

下略

肉韃心論意欲界可有修惠耶

答不可有修惠也

下略

肉韃心論意欲界可有修惠耶

答不可有修惠也

下略

二校 1280
了

p19

建長五年 五月四日

昭和 年 月 日

仙洞最勝講家肉論義用意技
端書 12
連長土年仙洞最勝講家肉論義用意技
端書 8 12 4
肉經又。直且未師釋異熟威儀工巧通果四無記心相云通果
者亦名变化無記又今者通果心所化事可互眼等五根等五塵
耶 答不互五根五塵也 下略 7p
端書 〇所項三全 7p
肉難心論意可許欲界有定義耶 答不許之也 下略 7p

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

113
29
5-4

二校了

1281

P20

建長五年五月十四日

昭和32年5月24日調

由超登十地義出何經耶。答。出金光明經也。○下略

(端書)

○前項三合い

耶。答。宗師釋生死為夜涅槃為日也。○下略

由經文云我常於日夜每思惟是事又所云日夜者可昏曉日夜

建長五年後高倉院御八講。宗性由長俊清印

(端書)

↑647

諸字疑由論義校

十九

建長五年之中
自三月至五月

○冊子本

113
18
22-19

五月十四日。後高倉院法皇御忌御八講。二卷。宗性上人關係資料集原稿

原本校了

嘉慶二年十一月十四日

二文

1281 3

自願登干此處及下諸項 亦在堂中火照監少。不

(附註) 〇此項二

眼 茲自持事主及民系到案改日。不

同錄文下火照本日亦在堂中火照監少。不

自願登干此處及下諸項 亦在堂中火照監少。不

(附註)

自願登干此處及下諸項 亦在堂中火照監少。不

自願登干此處及下諸項 亦在堂中火照監少。不

〇此項二

立井十四日 自願登干此處及下諸項 亦在堂中火照監少。不

原本外合

二校了

P

1282

函

号

冊

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

六月十三日尊勝院中堂ニテ新四季講勘文抄ヲ始ム

新四季講勘文抄

五

〇冊子本

113

22

13-1

(表題) ↑ 6 年

新四季講勘文抄第五

權大僧都淳性

建長四年

春季三分

建長四年三月十二日恒例四季講内答記

客藏内律師

勝升得業

良忠得業

慶成院

講師

玄判得業

内者聖禪得業

但し内者要文略スマタ本書ノ奥書ナリ

賢清院

昭和

年

月調

一校了

P

1285

函
号
冊

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

20

25

新四季講勘文抄

〇冊子本

113
22
132

(表題) 6字

新四季講勘文抄第六

權大僧都宗性

建長四年
夏季二分

建長四年六月二十九日恒例四季講問答記

審客 藏田律師 定成得業 玄淵得業

聖禪得業 貞舜院

講師 田舜得業 向者榮華法師

〇中興傳上問答中

(端書) 6字

昭和 年 月 日

二校了

F 1286

函
号
冊

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

15

20

25

仁治二年宸勝講頼源由宗性律師

次由者 良境法師

〇組已向寺要入墨入

昭和
年
月調

二校了

E 1283

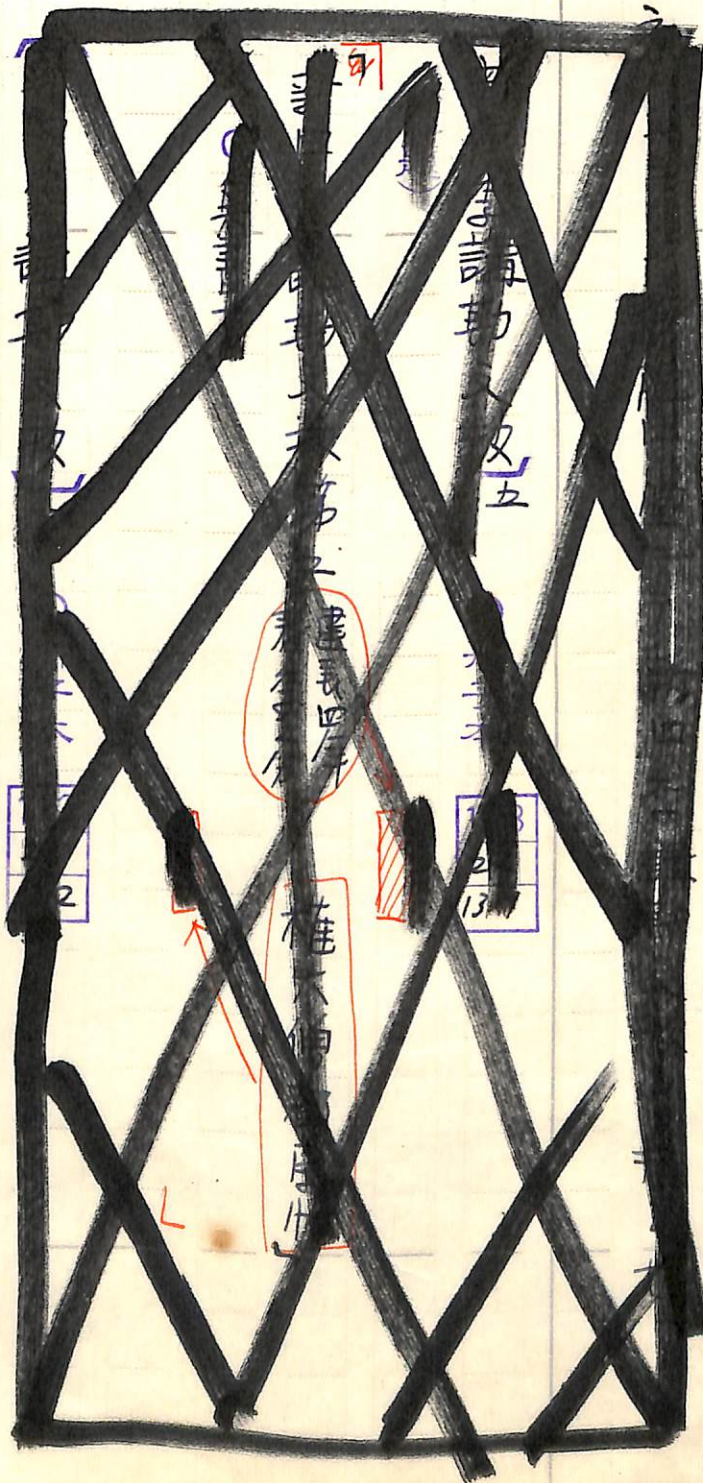
P. 21

建長五年六月十三日

建長五年⁹六月十九日^時於東大寺尊勝院中堂正面結集
之畢長睦法師之勘文有五月之比送之榮華法師之勘又雖
謹責令遲息之向乞出彼草本訛賴尊擬得草令清書之今日

(奥書)

↑ 6年



昭和

年

月調

1284

函

号

冊

二校了

22

建武五年六月十三日

華嚴宗末葉法印宗性記之

所結集之也後賢之輩可哀其志焉仰願以此花嚴習學之微功必為尊值遇之業因矣

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

昭和 年 月 調

新四季講勘文校⁵ ¹² ⁷

(表題)

〇冊子本¹⁰ ⁹

113
22
13-3

⁸ 建長四年
秋季二分

⁹ 新四季講勘文校第七

⁹ 權大僧都宗性

建長四年七月十一日恒例四季講内答記

客藏⁹四律師 勝升得業 良忠得業 良海院

四兼院

講師 聖禪得業 向者度重敷得業

二校了

1287

P

昭和 年 月 調

二校了

P

1288

函
号
冊

(端書)

5
6年

延久六年二月二日 返由乾喜

○中署

次 肉者屬源法師

嘉保二年春日御八、一番返由賞与

6年

6年

6年

延久六年七月十日 被始修春日御八、一番永縁大法師

對慶應大法師

○但し肉者ノ要又ハ略ス

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

20

25

昭和
年
月
調

二校了

1289

P23

建長五年六月十三日

建長五年六月十三日
 集之畢由者兩人勘又令違々之間日未之間不及記録今
 相尋講師聖禪得業之草本訛頼尊擬得業所書置之也後
 賢之輩可哀其志焉仰願以此花嚴習学之微功必為尊
 值遇之業因矣

華嚴宗末葉法印宗性記之

(奥書)

建長五年六月十三日

時辰

於東大寺尊勝院中堂正面結

願
号
冊

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

新四季講勘文抄草

〇冊子本

113
23
1

(表題)

新四季講勘文抄第七草

建長四年
秋季二分

権大僧都宗性

〇但し本書ノ奥書ナシ

二校了

E 1290

P

昭和
年
月
調

山

二校了
P

1291

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

20

25

新四季講勘文抄

12

5

10

9

113
22
13-y

(表題) 1字

新四季講勘文抄第八

9

8

建長四年
冬季二分

権大僧都宗性

9

建長四年十一月三日恒例四季講内卷記

客藏田律師 定成得業 聖禪得業 栄尊院

良護院 常用

講師 良忠得業 由者頼尊 擬得業

昭和 年 月 調

一校了

1292

P

函
号
冊

○但シ内容ノ要文ハ略ス

5

10

次由若賢清法師

15

20

25

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

昭和
年
月
調

函
号
册

二校了

1293

P24

建長五年八月三日

(奥書) ↑ 6号

建長五年^{丑癸}六月十四日^{時未}於東大寺尊勝院中堂正面結集
之畢賴尊擬得業之勘文一昨日^{十二}初令書進之賢清法師之
勘文今朝初令書進之仍今日所結集之也後覽之輩可哀其
志焉仰願以此花嚴習學之微功必為善導值遇之業因矣

華嚴宗末華法印宗性記之

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

25

昭和 年 月 日

二校了

1234

P

函

号

冊

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

20

25

新四季講勘文抄

九

〇冊子本

113
22
13-5

(表題)

116号

新四季講勘文抄第九

建長五年
春季之分

権大僧都宗性

建長五年七月二日恒例四季講問答記 春季之分

客藏田律師

玄淵得業

聖禪得業

栄華院

講師 信盛得業

肉者隆重法師

〇中書

次

肉者親尊法師

〇但レ問答ノ要又ハ略ス

昭和 年 月 調

二校了

1295

P25

建長五年六月十三日

華嚴字未葉法印字性記之

建長五年（癸丑）十一月十一日（未時）於東大寺尊勝院中堂正面結集之畢、隆重親尊兩問者之勘文、去八月之比、即所書進也。其後連々急忙之間、不及結集之、而今聊屬修学之隙、所結集之也。後賢之輩、可哀其志焉。願以此修学之微功、必為彼得脫之良因矣。

（奥書）↑6年

1
2
13

（年譜）

宗性上人關係資料集原稿

二校了

P

1296

頭
号
冊

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

20

25

新四季講師文抄

○冊子本

113
22
13-6

(表題)

新四季講師文抄第十

權大僧都宗性

建長五年七月十一日恒例四季講由答記

客 藏圓律師 頼尊擬得業 慶重擬得業

幸源院 快舜院

講師 聖禪得業 向者 定成得業

(端書)

建長五年仙洞経海向字

(性)

昭和 年 月 調

一校了

1297

P

建長五年七月十一日尊勝院肉題講 爲并曉修之 賢清問予
建長五年七月十一日尊勝院肉題講 爲并曉修之 賢清問予

○但し内管、要文ハ略ス

当用

昭和
年
月調

二校了

1238

P26

建長五年六月十三日

華嚴宗末葉法印宗性記三

建長五年^{庚寅}二月二日^時於東大寺尊勝院中堂正面結集之
 畢賢清法師之勘文去年七月之末即雖進之不及因答記錄
 定或得業遂不及勘文之間去年窮冬之天借請講師聖禪
 得業之本訛賴尊得業令書寫之畢而今聊屬修學之際所結
 集之也後覽之輩可哀其志矣願以此修學之微功必受彼得
 朕之宜因矣

微

(與書)

↑6年

建長五年六月十三日
 宗性上人關係資料集原稿

函 号 冊

(年 譜)

宗性上人關係資料集原稿

新四季講勘文抄(王)

〇冊子本

113
22
13-17

(表題) ↑ 6 12 7

新四季講勘文抄 第十一

權大僧都宇性

建長五年
秋季三分

建長五年十一月五日 恒例四季講問答記 秋季三分

客 藏田律師

玄淵得業 聖禪得業 信盛得業

栄華院 当用

講師 定成得業

肉著良曉法師

次同 實弘法師

〇但之本書ノ奥書ナリ
肉著ノ要スハ略スマシ

8 P

二校了

P

1302

昭和
年
月 調

二校了

P

1303

函

号

冊

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

20

25

新四季講勘文抄(上)

〇冊子本

113
22
13-8

(表題)

16号

新四季講勘文抄第三

建長三年
冬季二分

權大僧都宗性

建長三年二月十日恒例四季講問答記

客 藏圓律師 聖禪得業 顯峯院 良暖院

講師 憲源院

講師 賴尊得業

同者 實乃法師

次同者 賢清法師

〇但し問答一冊又八略又

昭和 年 月 調

E 1304

建長五年六月十二日

華嚴字末華法印字性記之

建表六年庚寅四月十七日時午於東大寺尊勝院中堂正面結集
之畢去冬三冬之天連々指合之間冬季講肆遂令退轉畢今
當中春之候聊依有其暇去年冬季之分繼所果行也實弘賢
清兩人固著之勘又近日注進之間今日得修後之隙聊結集
之也後隨之輩可哀其志矣願以此警古之微功必彼得脫之
良因矣未

奧書

建表六年庚寅四月十七日午時於陳太寺尊勝院中堂正面結集

之畢去年三冬之天連々指令之間冬季講肄遂令退轉畢令

當中春之候聊依有其暇去年冬季之分繼所果行也庚弘賢

清兩人
因者之
勘又丘
日注進
之間今
日得修
後之隙
聊結集

之也。後隨之輩可哀其志矣。願以此警古之徵。功必彼得脫之。

良因疾

赤

昭和 年 月 調

二
松
了

1305

P

順
号
冊

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

20

25

新四季講勘文抄

十四

〇冊子本

113
22
13-9

(表題)

1024

新四季講勘文抄第十四

権大僧都厚性

建長八年
六月二十日

建長八年六月廿七日被行四季講問答記

客

藏圓律師

定成得業

頼尊得業

円辨得業

当用

講師

聖禪得業

圓着良曉法師

次圓若賢清法師

〇但し問答ノ要又ハ略スヲ本書ノ奥書ナシ

昭和

年

月調

二校了

P

1306

函
号
册

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

新四季講勘文抄

(表題)

〇冊子本

113
22
13-10

新四季講勘文抄第十六

權大僧都宇性

康元二年二月十日被行四季講問答記

客藏圓律師

玄淵得業

幸源院

快隣院

貞翁院

当用

講師聖禪得業

肉着

榮兼法師

次肉

良曉法師

次肉

賢清法師

庚元三年
二月十日

昭和
年
月
調

二校了

1307

P30

連長 五年六月十三日

昭和 年 月 日

函 号 冊

(年 譜)

宗性上人關係資料集原稿

20

25

但云肉管ノ要之略ス
奥書 ↑ 6 年
34 長元年六月十九日 昧於東大寺知足院別所結集之畢日
末相尋面々之向者記置各々之漏載今日再再治重結集之
願以此勤學之勤必為彼解脱之緣矣
東大寺別當華嚴宗末華法印權大僧都宗性記之

年齡滿六十

夏曆四十八

新四季講勘又抄¹²十七⁵

○冊子本⁹

113
22
13-11

(表題) ↑ 6 年

8 康元二年
三月六日

新四季講勘又抄第十七⁹

權大僧都厚性⁹

康元二年三月六日被行四季講肉各記

客 藏圓律師 匠或得業 賴尊得業

慶重得業 隆重院

講師 聖禪得業

肉若 良辨法師

今日有少請用
引上勤住之

次問者大法師宗境⁹

二校了

1308

P

昭和 年 月 調

No.

二校了

E 1309

P

函
号
册

5

10

(年譜)

15

20

25

宗性上人関係資料集原稿

次向 頼義法師

昭和
年
月
調

[宗性上人研究会]

函
号
冊

二校了

1310

P 3/12

庚辰 五年 六月 十三 日

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

20

23

(奥書)

↑ 6 12

為表元年六月十九日申於東大寺知足院別所結集之畢
 束之間訪問者弄講師記置云云之論義晚夏之今注向題書
 日記結集一帖之雙紙願用之生後學之惠解願依之興當宗
 之佛法矣

東大寺別當華嚴寺末葉法印權大僧都宗性記之

年終滿六十

夏臘四十八

新四季講勘又拔

十

○冊子本

113
22
13-12

表題

↑
6
12
+

正嘉祐二年
七月十一日

新四季講義又按第十八

權大僧都字性

正嘉二年七月十一日被行四季講問答記

客藏四僧都

庄成掾議

玄泐得業

当用

榮華院

講師聖禪得業

向者良曉法師

次由賢清法師

次 固 賴 美 法 師

二校了

1311

P

函
号
冊

二校了

P. 32

1312

康長五年六月十三日

昭和 年 月 日

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

11
22
13-12

(奥書)

↑ 6 年

弘長元年六月十九日 時 於東大寺知足院別所結集之畢日
 末之由仰三人之向者令記難於勘教又晚夏之今馳一愚之
 愚筆立注由題書日記是偏必用後學之惠解所勵當時之微
 功矣

東大寺別當華嚴宗末華法印權大僧都宗性記之

年終滿六十

夏曆四十八

二校了

P

1313

新四季講勘文校十九
(表題) ↑ 6号

○ 冊子本
○ 校字本

113
22
DB

宗性上人関係資料集原稿

文應三年

十一月五日

新四季講勘文校第十九

権大僧都宗性

文應三年十一月五日恒例四季講向卷記

客 玄刹得業

信盛得業

頼尊得業

隆重法師

朝座講師

聖禪掾講

由者賢清得業

当用

互為

宗曉大律師

暮座講師

宗曉大律師

由者良曉法師

昭和 年 月 調

二校了

1314

P 37

建長五年六月十三日

昭和 年 月 日

弘長元年六月十九日 時^西於東大寺知足院別所結集之畢
之世儀之真諦常雖易四季之講演尋問者尋互為聊記置八
条之滿義後覽之輩可哀其志矣

東大寺別當華嚴宗末葉清印權大僧都宗性記之

年終滿六十

夏曆四十八

(與書) ↑ 6 年

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

六月三日京都唐橋油小路通俊上座一住房ニテ止觀第六卷

至要論義抄ヲ抄ス

止觀第六卷至要論義抄

○冊子本

113
68
1

(表題)

止觀第六卷至要論義抄

權大僧都宗性

(奥書)

建長五年六月二十三日酉時於唐橋油小路通俊上座之住房書寫之畢此間自近曆寺智因法印之許借請止觀第六卷抄出之次為備後日之披覽聊所書函之也後覽之輩可哀其志焉願以此天台字體古習字之微功必為彼喪卒天見佛圓法之業因矣

二校了

1315

P34

建長五年六月三日

右筆華嚴宗末葉法印宗性

昭和 年 月 調

二校了

E 1316

P 35

函

号

冊

建長

五年六月二十八日

昭和

年

月調

5

10

(年譜)

15

宗性上人関係資料集原稿

20

25

4) 年齢五十二
夏曆満四十

原本校了

二校了

1317

P 36

建長五年六月 日

昭和 32 年 8 月 23 日 調

由經文付說留權那尊者授記相且清明如來可受胎生耶
答可受胎生也。○下略 7p

端書。○前項ニ合シ。○下

建長五年之月西人条八講字性由長俊清印
由經文云若人於千万億無量阿僧祇劫中算數校計不能得知
顯何事耶。答說山海惠自在通王佛壽命於千万億無量阿
僧祇劫中不能數知也。○下略 9p

端書 12

常用

諸字疑由論義校 十九

建長五年之中
自三月至之月

○冊子本

113
18
22-79

是月

次ノ落書ニ合ス

西人条八講

10p

二校了

1318

P317

建長五年六月 日

昭和 32 年 8 月 24 日 調

函 号 冊

(年 譜)

宗性上人

原本校了

原稿

15

25

藤原実持八講

諸字疑由論義校

十九

建長五年乙申
自三月至六月

冊子本

113

117

119

22-19

(端書)

↑ 6 号

建長五年清水谷大納言実持八講厚性肉信系清印

向宗師意分澄佛界報如是唯為功德所感為當可互無明所惑

耶講答云。○以下櫛筆

(端書) ○前項三合

由經文付悅同庫衆相且善賢菩薩自序品時可有悅法花會座

耶講答云。文殊在初二一經發起相善賢居終請四要

通之旨故善賢菩薩自序品之時不居悅法花會座也但二經

中別善賢菩薩歟此。○以下櫛筆

7p

二校了

1319

P. 38

建長五年六月 日

昭和 年 月 日

函
号
冊

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

25

諸字疑由論義本抄
(端書) 10

自建長三年
至同五年

〇冊子本

113
1819
9-7

建長五年六月清水谷大納言實持八講字性由信義法印
建長五年34誓院八講之時智田法印奉之似有違乱事
之間不用之

〇但之由答ノ要ス諸字疑由論義抄(113 22-19)ノ分證佛界
異事ナキヲ以テ略ス

二校了

P

1300

函

号

冊

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

20

25

七月十八日贈皇太后宮御人講ニ参ス

新四季講勘文抄

十

〇冊子本

113

22

13-7

僧綱

(紙背又書)

宗性法印權大僧都

右依

院宣奉請自庚七月十八日被相行贈皇太后宮御人

講如件

建長五年之月廿一日

從儀師度賢

威儀師清紹

昭和 年 月 調

一校了

1321

P78

建長五年 是恭

昭和 年 月 日

函 号 册

(年 譜)

宗性上人関係資料集原稿

諸字 延因滿教本抄 (端書) 皇太子宮御人講
 建長五年 贈皇太子宮御人講之時、智田所印注送之。
 冊子本 113 19 9-17
 〇下略

二校了

1322

P399

建長五年七月 日

昭和 32 年 5 月 24 日

七月

是月大宰權師為經八講三卷

諸字疑由海義校

(端書)

建長五年三月
自七月至冬

当用

冊子本

113
18
22-20

建長五年大宰權師

為經八講

由智四法印

由經云云多有僮僕

佐吏民

文

所云

約別教四教次位如

何釋之耶

答

字師釋別教四教十地如

也

斷而此釋

異義

非一或約教道論之云義意有之感約證道論之云義意有之

也

下略

(端書) 〇前項三念

由信解品疏中引仁王般若經說明般若說時今者二十九年說

摩訶般若者如來或道第二十九年初說般若者歟

答

云此事

學者異義非一或第二十九年初說般若云義意有之或二十

No.

二校了

1323

P40

庚辰年七月

昭和
年
月
調

函
号
冊

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

九十年之間說般若云義意有之或如束成道第三十年已前
 說般若云義意有之也。下略

二校了

1324

P 41

建長五年七月日

國
号
冊

諸字疑肉論義草抄

(端書) ↑ 6 5+

自建長三年
至同五年

○ 冊子本

113
20
9-11

宗性上人関係資料集原稿

20

23

建長五年七月大軍權帥為經八講宗性肉智四法印

○ 但し肉智一要又ハ諸字疑肉論義草抄三(13 18 22-20)ノ多有僅僕云々

ト異事ナキヲ以テ略ス

(端書) 6 前項ニ合シ

○ 但し肉智一要又ハ諸字疑肉論義草抄三(13 18 22-20)ノ仁王般若云々ト

異事ナキヲ以テ略ス

二校了

1325

P 46

建長五年八月二日

昭和 年 月 日

函
号
冊

八月二日後堀河院御人講三卷

年譜

宗性上人關係資料集原稿

20

25

諸字疑向端義抄

建長五年七月至冬

冊子本

113
18
22-24

端書

16年

建長五年後堀河院御人講宗性向公去法印

因經文云唯佛与佛乃能究了义 尔者云唯佛云与佛俱指極果

佛歟 答尔也 下略

向釋尊或道第七日在鹿苑說三集法出何經耶 進云如是大

師釋云若唯深密普曜二經第七日在鹿苑說三集文

下略

二校了

1326

p42

八月十四日 京都仁和寺北辺慶源蓮祐房ノ住房ニテ天台宗三

身義要又抄ヲ抄ス

天台宗三身義要又抄

〇冊子本

113
45
2-1

(表題)

天台宗三身義要又抄上

(奥書)

權大僧都宗性

建長五年八月二十四日 昧於仁和寺本堂之北面門前慶源

蓮祐房之住房之中地藏堂之北庇拭老眼写之畢去五月仙

洞最勝講之時迄曆并經海法印对宗性疑向金光明經所說

三身中提他受用報身耶云論義畢其後為檢彼又叙自迄曆

并皆用諸印之許借請管見抄之中三身義文集之次為備後

覽里所書写之也願以此修洋之微功必為彼兜率之業因矣

建長五年八

月二十四日

昭和

年

月訓

二校了

1327

P 73

建長五年八月二十四日

9

函
号
冊

5

10

15

20

25

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

右筆華嚴寺末葉法印宗性

年終五十二

夏曆滿四十

昭和 年 月 日

二校了

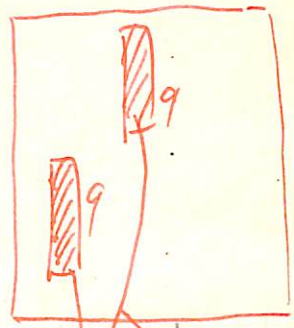
1328

44

建長五年八月二十四日

右筆華嚴字未華法印權大僧都字性

建長八年^{丙辰}三月^{丙午}於嵯峨紙^上堂西大門之北^上称願
 房住房書寫之畢^上此書者^上迄曆并皆用法印之本也^上而去^上年夏
 比雖借得之疎^上疎^上學之身^上解^上為之^上餘不及書寫^上空經兩年之
 處^上此^上向立^上出南都之霞^上賞^上觀西山之花^上之際^上屬此^上幽閑之地^上終
 其書寫之功焉^上仰願當山本尊^上袂^上迦如來^上哀^上賜此^上修學之勤^上知
 見此^上週回之志^上一期終焉^上之秋^上暮送神魂^上於兜率天上^上三層下
 生之春朝^上趨引^上棲於龍華樹下而已^上



(與書) ↑ 6 年

天台厚三身義要文抄下

(表題) ↑ 6 年

天台宗三身義要文抄下

○ 冊子本

113
45
2-2

權大僧都字性

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

二校了

1329

P 45

函
号
冊

建
五
年
八
月
三
十
四
日

5

10

(年譜)

15

宗性上人関係資料集原稿

20

25

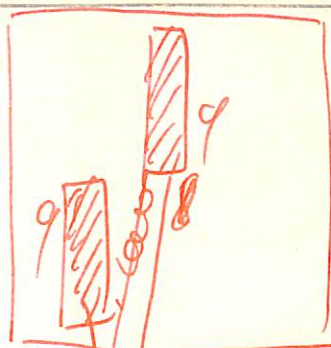
9
年
齡
五
十
五
夏
曆
四
十
三

昭和
年
月
朔

二校了

1330

P 46



是

月尊勝院 = 華嚴宗海義抄第一 9 抄入

華嚴宗海義抄

(表題)

〇冊子本

113

111

華嚴宗海義抄第一

(奥書)

權大僧都宗性

建長五年八月之比於東大寺尊勝院記録華嚴宗海義難
答之時所書損之草本也。然而為備後日之披見所集一帳
之双紙也。後賢之輩可哀其志矣。

雙又

右筆華嚴宗末葉法印權大僧都宗性

年於五十二
真脂滿四十

建長五年八月 日

昭和 年 月 調

二校了

1331

函
号
冊

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

20

25

華嚴宗雜論義披¹²
(表題) ⁵
四¹⁰
○冊子本⁹

113
12
1

華嚴宗雜論義披第四⁹

權大佛都序性⁹

○但し奥書ナシ。

イママハ二便宜合叙ス。

昭和
年
月
調

二校了

1332

P 78

建長五年八月 日

昭和 32 年 4 月 23 日

是

月 西園寺八講 = 参ス

諸字疑向論義故

(端書) ↑ 6 12

建長五年之中
自七月至中冬

〇 冊子本

113
18
22-20

(年譜)

宗性上人関

原本校合了

建長五年八月西園寺八講宗性由頼田大僧都

由添品法花經中云汝聽觀音行善應諸方所云介者今此倡頌

無盡意菩薩答云當如未益 答添品法花中有異本不

同也。 〇下略

(端書) ↑ 6 12

由依一七日修行見善賢大士類可有耶 答若就身云之可

有此義若就勝身論之不可有此義也 〇下略

二校了

1333

國
号
冊

P 89

九月十八日陰明門院御入講ニ参ス

~~建長五年陰明門院御入講ニ参ス~~

諸宗疑由海義抄三

端書

↑ 6年

建長五年之中
自七月至比冬

○冊子本

113
18
22-20

建長五年陰明門院御入講字性肉智田法印

由今經中付列同圓象且說經會座無色界天衆可束耶 講答

云今經是年華大會教故說經會座無色界天衆實可束也

但見佛團法之儀專有領色二界故經文略不列無色界天衆

也 果下

端書 前項合

由經文云無二亦無三 文所云二三者指二乘三乘歟 講答云

經文含多義故無二亦無三之文指二乘三乘云意可有也但

一家意開會之時不限二乘三乘可會方華般若帶二帶三故

建長五年九月十八日

昭和九年 月 調

No.

二校了

1334

P. 50

建長五年九月十八日

昭和 年 月 調

函
号
冊

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

宗師意無二者如速方算帶二無三者速般若帶三釋也。

9
P

別紙一

函
号
冊

(年譜)
宗性上人関係資料集原稿

九月廿三日 土御内院御入講ノ公情ヲ後久

12P
↓
新四季撰勘文抄ノ
。無子本

113
22
136

(紙表文書)

6号
僧細牒

僧細

宗性法印權大僧都

右依^用限宣奉請自來十月七日被始行土御内院御入講

如件

建長五年九月廿三日

從儀師實賢
威儀師清紹

No.

P

昭和
年
月
調

別紙二

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

25

九月廿八日 法勝寺阿弥陀堂供養 / 今情ヲ受ク

新四季講勘文抄 十 〇 母子本

113
22
136

6号 (紙背文書) 〇 僧綱牒

僧綱

宗性法印權大僧都

右依 隱宣奉請來十二月廿二日被供養法勝寺阿弥陀

堂被衆如件

建長五年九月廿八日

從儀師寛賢

威儀師清紹

昭和 年 月 日

國
号
冊

二校了

1335

顧

1755

9

原本云

(本奥書)

6年

華嚴原文義按第一

(表題)

16年

華嚴原文義按

○冊子本

12/34/1

九月十九日尊勝院ニテ華嚴原文義按ヲ按ス

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

相傳頼融

信玄

建長五年九月二十九日

昭和 年 月 日

建長五年九月二十九日 時於東大寺尊勝院中堂東廊按之
畢去年并當年欲勤仕仙洞最勝講之時按出此等論義文尺
三然而日末之間依念忙無隙難答之趣不及記錄之而今
借願余算之已迫結集散在之文尺次耶仕遲鈍之愚寧忍記
難答之綱要雖恥後學之披見只載當時之所存願以之為減

No. 1336

二校了

P56

罪生善出離生死之良緣願以之為往生內院得菩提之果
因而已

右筆華嚴末華法印權大像都宗

性

年終五十二

夏龍滿四十

(與書) 6年

末

正和二年五月一日於仁和寺明王院書寫了
備歎當宗之
衰微勵老眼所令書寫也願以此微功為往生極樂有因矣

縱難交難字慢心迴向無二心三宝垂哀懇令遂往生極樂懷
雖

末學顯玄

年終五十二
夏龍三十五

親

建長五年九月二十九日

昭和 年 月 調

二校了

1337

P 51

函
号
册

十月十一日土御内院御人講三卷

(年譜)

宗性上人關係

原本校了

諸字疑向論義校三十

(端書)

建長五年市
自七月至冬

○冊子本

113
18
22-20

建長五年土御内院御人講宗性向信兼清印

因

經文云摩訶般若花嚴海空者三解釋此又作三解釋

者第三釋意所云花嚴海空者三時中何耶

講答云宗師釋此文作三解初釋意云般若入法界第三

釋意云長時花嚴第三釋意判即是圓頓法花教也云此

釋意雖似指正字法花經實指無量義經也序方正字雖異

同一座席教故指無量義經云圓頓法花教也

(端書) 前項ニ云

因經文付說三法四果益且暫住世第一法位不入聖道者可

有耶講答云上忍世第一法唯二刹那者大小常途之所

建長五年十月十一日

昭和 32 年 4 月 23 日

二校了

1338

P52

函
号
册

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

判也故暫住世第一法位不入聖道之者難有欵但論藏
中世第一法位可有多判那具事有之欵是別途欵内也

建長五年十月十一日

昭和
年
月
調

諸字疑由論義本抄

(端書)

自建長三年
至同三年

〇冊子本

113
18
22-22

建長五年土御内院御八講之時房源大僧都奉之即用之

畢 講師信永法印

〇但レ由答ノ要文ハ諸宗疑問論義抄ニ
(113 18 22-20) 〇「花岩海空」ト異事ナキ

ヲ失テ略ス

(端書)

6年

建長五年土御内院御八講之時房源大僧都奉之末用之

因經文云唯佛与佛乃能究了云々今者云唯佛云与佛候者俱指

極樂佛歟 答俱指極樂云意有

〇下略

二校了

1339

P.53

建長五年十一月十一日

昭和 年 月 調

一校了

1340

P. 54

建長五年十一月十一日

昭和 年 月 調

函 号 冊

(年 譜)

宗性上人関係資料集原稿

諸宗疑肉論義草枚

建長五年

〇冊子本

113
20
9-17

端書) ↑ 6字

建長五年土御内院佛八講宗性肉信兼法印

。但し同答一要又ハ諸宗疑肉論義枚三 (113 18 22-20) / 「花岩海雲室」ト

異事ナキヲ以テ略ス、

十月五日尊勝院三仙洞最勝講疑肉論義抄ヲ抄ス

仙洞最勝講疑肉論義抄

○冊子本

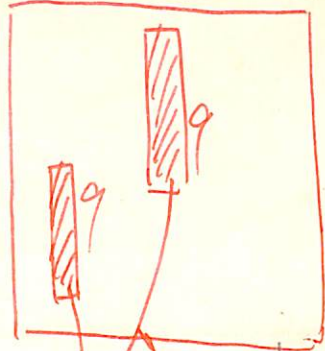
113
35
1

(表題)

仙洞最勝講疑肉論義抄第六

(奥書)

雄大僧都宗性



1341

P57

建長五年十一月五日

昭和 年 月 調

建長五年十一月五日時於東大寺尊勝院中堂東廊抄之畢
自去五月四日被始行仙洞最勝講亦令參勤之時對延曆寺
經海法印所疑肉之論義也其後不經幾程依里田新庄之講
訴詔別字殊致張行惣寺遂肉門戶畢然固公家及張本沙汰
餘談至素秋暮月仍爲此連々而相續修學漢後而退
轉之間今此兩條論義又弄不及抄出而今屬中冬之天聊
依有其隙不顧寒中隨管見而書寫處々之文紙不憚遲鈍性

二校了

1342

580

函
号
册

建長五年十一月五日

(年譜)

宗性上人關係資料集重編

愚蒙而記録室々之難答5 浮雖取後昆之嘲10 只乃15 甫初心中
 学之悟也願以此勤必往住内院之業因願迴其功為值遇若
 尊之良緣圓向非他願身無貳當末導師大聖慈尊佛法權獲
 春日權現必照見其志遂田滿其望而已20 已

右筆花華嚴序末筆法印字性

年終五十二

夏臘滿四十

二校了

1299

(糾背文書)

威儀師緒紹

言上

大序并別當

宣下事

右雖御理運事候臨期美悦之至上啓而有條殊企參煩候

之間且言上如件恐惶謹言

十二月廿五日

威儀師緒紹

進上 民部御法印御房

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

20

25

昭和
年
月
調

二校了

1300

P

函

号

册

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

5

10

15

20

25

宗性書状

指事不候之間自是乍思不申候之處今仰誅恐悦候

大寺寺執務事

朝恩之至↑不知所謝候故預賀礼殊添面目候也

昭和
年
月
調

二校了

L 1301

P

函

号

冊

陳
字性
狀字

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

20

25

雄大僧都法印大和尚位宗性誠惶誠恐謹言

請殊蒙

天恩因准皮例優公請勞効被補大原寺別當願

狀

謹考舊貫授出公請學道之勞効應七寺執務之顯職者口代
之通規明時之嘉例也爰宗性修學拙志既及六旬之暮齡

(宗性狀字)

昭和 年 月 調

二校了

1343

P59

蓮長土師

是歲

昭和

32年5月24日調

函
号
冊

ハ

諸諸雜載

三月一之月

(年譜)

宗性上人
原本校了

建長五年

最勝金剛院御人講

冊子本

諸字疑同滿義校

十九

建長五年之中
自三月至六月

113
18
2279

(端書)

建長五年最勝金剛院御人講宗性肉長俊法印

肉經文云亦於七佛說法人中而得第一文過去七佛中初三

佛賢劫出世佛歟 答命也

〇下略

端書〇前項三念

肉經文云須臾聞之即得究竟阿耨菩提文即座有此益歟 答

即座無此益也

〇下略

二校了

1344

P.60

函
号
冊

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

○長講堂御人講

諸宗疑問海義技

十九

(端書)

建長五年三月至六月

113
18
22-19

○冊子本

建長五年長講堂御人講宗性肉長俊清印

肉經文云皆於四衢道中露地而坐又所言露地而坐又有幾釋

耶 卷有二釋判也

○中略

建長五年安樂心院御人講經海云露地而坐父座秋

此釋意長者歡喜云也

○下略

(端書) 前項三合

問他師意釋信解品題云利根正見有信有解又如身大師如何

破此義耶

進云如身大師破云若法執中見等聲聞領時

合和入七地云何猶在初信心耶

○下略

建長五年

是歲

二校了

1345

P61

建長五年

是歲

昭和

年

月 調

函

号

冊

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

諸字疑向梅義本抄

(端書)

↑ 6 早

自建長三年
至同五年

○ 冊子本

113
19
9-17

建長五年長講堂御人講之時皆因法印等云 即对長俊

法印用之畢

キヲテ略ス

〇但し向答ノ要文ハ諸字疑向梅義本抄十九(113 18 22-19)「四衢道」ト墨筆ナ

二校了

1346

p62

函
号
冊

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

25

諸字疑由論義草技

建長五年

〇冊子本

113
20
9-17

端書

建長五年表講堂御八諸字性肉長俊法印

8

〇但し肉答ノ要又ハ諸字疑由論義技十九(13 18 22-19)ノ四衛道云々ト

端書

〇前項ニ合ハ

〇但し肉答ノ要又ハ諸字疑由論義技十九(13 18 22-19)ノ利根正見云々ト
異事ナキヲ以テ略ス

建長五年

是歳

昭和
年
月
調

二枚

1347

P 67

建長五年

是歲

昭和
年
月
調

法華疑由用意抄

〇冊子本

113
2/1
2-

(端書) ↑ 6 号

建長五年長講堂八講字一由毛俊法印

〇但已向各一寺又ハ諸宗疑由梅義抄十九 (113 18 22-19) 一利根正貞云々ト

安ハナキヲ以テ略ス、

二校了

1348

P 64

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

15

20

25

報恩院御入講

諸字疑由論義抄十九

(端書)

↑ 64

建長五年三月
自三月至六月

○冊子本

113
18
22-19

建長五年報恩院御入講字性由信義法印

問經又云勇猛精進名稱善門又所云勇猛精進者可指因位行

耶講答云。下略

(端書) 前項三合

問經又云諸佛神力智慧希有故一淨光照無量國又所云諸佛

者唯指教主釋尊歟講答云諸佛之言是廣故雖可亘十

方三世佛釋尊之外餘佛無故光照無量國之義故如善大師

釋孝諸顯一正指釋迦也。下略

建長五年

是歲

昭和32年5月24日調

函
号
冊

1349

P 65

建長五年

是歲

昭和
年
月
調

〔法華疑箇用意抄〕

〇冊子本

113
211
2-

一卷

端書

建長五年報恩院佛八講字
由信兼法印

但し箇答ノ要之ハ諸字疑箇由海義抄十九(113 18 22-19)ノ「勇猛精進」云々ト異ニテナリ以テ略ス。

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

二校了

1350

P 66

建長五年

是正歲

昭和

32

年

5

24

月

調

函
号
冊

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

5

10

15

20

25

○弘誓院御入講

諸厚疑問論義抄

十九

○冊子本

(端書)

6年

建長五年之中
自三月乙未有

8 建長五年弘誓院御入講字性由長俊法印

9 問摩訶止觀所明次第觀中道為別教意為當如何

答云此事

雖有學者異義可存正別教意也兼取介前因云義也

○下略

二校了

1351

P617

函
号
册

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

建長五年六月 日

昭和 年 月 調

分證佛界報如是為唯功德所感將亘可明所感歟

○下略

諸宗疑向論義本技
 建長五年六月清水谷大納言更持八講宗性因信兼清印
 建長五年三月廿四誓院八講之時答問法印奉之藏有違乱事之
 固不用之

自建長三年
至同三年

○冊子本

113
19
9-17

二
三
了

1352

P 68

建長五年
是歲

昭和
32年
5月
24日

○成恩院御入講

諸厚疑問論義按

端書

6平

8

十九

建長五年之中
自三月至五月

○冊子本

113

18

22-19

(年譜)

宗性上人

原本校了

建長五年成恩院御入講宗性肉聖憲法印
向今經所說五百聲圓上花嚴經所說五百聲圓其脉可同耶

9
答可有二意也下略

(端書) 〇前項ニ合シ

6平

9
向經又云若圓是得經決了聲圓法是諸經之王又云若說聲圓

法經王者必從用會後必當如何答說聲圓法經王事專可

南會之後也但如專大師釋經王本說未用之前一也

7

二校了

1353

P 69

建長五年 是歲

昭和 32 年 5 月 24 日 調

函 号 冊

(年譜)

宗性上人

原本校了

建長五年十二月

有十二月

西宮八講

諸宗疑問論義抄

端書

建長五年三月
自七月至中冬

冊子本

113
18
22-20

建長五年西宮八講宗性肉定解法印
肉多寶世尊踊現說經會座始在此品時歟
答今也。下略

端書。前項三

此終無死短命之怖者一切衆生得此益歟
答今也。下略

78

二校了

1354

p170

函

号

冊

(年譜)

宗性上人

原本校了

○藤原顯氏八講

諸字疑由論義校了

6(端書)

建長寺庫中
自七月至冬

○冊子本

113
18
22-20

建長寺庫中藤原顯氏八講宗性由聖德法印

由經文云當於如來餘深法中示教利喜之所云餘深法者

亘三教耶答或唯限別教或亘通別二教或亘三教云多意

可有也 兩方若 ○ 下欄筆

6(端書) ○ 前項三合

由法花論中云行苦行力者妙力者妙音品手現文 介者妙音菩
薩自行苦行欵為當令他行苦行欵 答可亘自他苦行也

建長五年

是歲

昭和 32 年 4 月 24 日調

二校了

1355

p17/

函
号
册

(年譜)

宗性上

原本校合了

原稿

○勸修寺西院八講

諸字疑肉海義按

6(端書)

6(端書)

建長五年三月
自七月至甲子

○冊子本

113
18
22-20

建長五年勸修寺西院八講字性肉定用律師

肉觀音品偈頌篇入法品法衣偈頌頌 答不令也

6(端書) 〇前項二合

肉或大乘經中說五種道云身證道又介者身證聖者可互有學
無學二類耶 答任常途義相思之唯可限有學一類也 〇下略

建長五年是歲

昭和 32 年 4 月 24 日

二校了

1356

函
号
冊

(年譜)

宗性上人

原本校了

20

25

○藤原為家八講

諸序疑問論義抄

(端書) ↑ 6 早

建長五年三月
自七月至中冬

○冊子本

113
18
22-20

8

建長五年民部卿為家八講 宗性由房源大僧都

9

肉宗師意第七歲唯緣第八歲抄 答常途義相唯緣第八歲也

但解釋中有所可思也 ○下略

端書 ○前項三合

6 早

肉經文云於此緣卷敬視如佛文在世滅後中說何師相耶 答

說滅後師相也 ○下略

端書 ○前項三合

6 早

肉觀音大士過去可唱果滿究竟成道耶 答難測也 ○下略

端書 ○前項三合

6

建長五年

是歲

昭和 32 年 4 月 23 日調

No.

二校了

1357

P 173

建永五年是歲

昭和

32

年

45

24

月

調

順

号

冊

(年譜)

宗性上人關係書

原本校訂

因依一七日修行見善賢大士類可有耶

答可有此類也

〇下略

7

9

5

10

15

20

25

國
号
冊

二
校了

135b

P174

法華經向用章抄

上卷

冊子本

(年譜)

113
211
2

宗性上人關係資料集原稿

一卷

端書 ↑ 6 早

諸字疑由抄第三十有之

建長五年民部卿為家八講字一由房源大僧都

但之箇管、要又八諸字疑由海義抄三(113 18 22-20) / 觀音大土云、
上異八十中子以テ略ス、

建長五年 月 日

是歲

昭和 年 月 調

建長五年
是歲

昭和 32 年 4 月 24 日

函 号 册

(年譜)

宗性上人関係

原本校了

○ 吉祥院 八講

諸字疑肉論義抄 (端書)

建長五年之中
自七月至中冬

冊子本

113
18
22-20

建長五年吉祥院八講字性肉義遍律師

向觀音大士可利不念衆生耶。答。慈恩大師不利之衆也。下略

6 (端書) 前項三合

肉。兜率行者逐兜率往生時可有弥勒来印義耶。答。可有此義也。下略

二校了

1360

p 176

函
号
册

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

○北野五部大衆十講

諸字疑肉痛義故三

建長五年之中
自七月至十月

○冊子本

113
18
22-20

(端書)

建長五年北野五部大衆十講字性肉永源僧都

肉般若經中付說乳惠等廿十地相且智論中釋已并地云於菩

薩成其佛地云 介者已并地實得佛果切德欽 答實不得佛

果切德也

○下略

(端書)

向得忍善根後生無想天義可有耶 答不可有此義也

○下略

建長五年北野五部大衆十講字性肉長俊法印

向涅槃經中云云於諸菩薩即云第七佛同其一名号云今此諸

菩薩者唯限住上菩薩欽 答唯可限住上菩薩也

○下略

建長五年

是歲

昭和 年 月 訓

二校了

1361

P 77

函
号
册

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

10

15

20

25

(端書) 〇前項ニ合シ

肉章安大師釋涅槃經四住菩薩名生不生云他經有六住

義第四住上此義相應文所云他經者指何經耶進云行滿

師釋云即是十地經

〇下略

〇俱舍三十講

〔明思拔〕十八

〇無子本

122
172
158

〔明事〕

寫本云

建長元年九月八日歸於東大寺尊勝院中堂東師拔之畢

俱舍論第十八卷者、為五年俱舍三十講、案文之内、依有其便宜

披見彼論疏之次、或訪明師、或任愚按、為南初初學之慧解

耶記一箇一答、綱要(中卷)

建長五年是歲

昭和 年 月 日

二枚乙

右筆 華忠宗末葉 法印権大信却守性

年 五十三

夏 曆 四十一

〇但之本書ハ江戸期宮本三芳ハ

二校了

1362

P/1

9

9

6

(端書) 〇前項二合

8 印

建長六年正月久我大相國通光忌辰八講宗性肉智用法

(端書)

諸厚疑肉海義校

建長六年

113
18
22-21

正月十八日 源通光忌日八講二卷

建長六年

(三九四)

(年譜)

宗性上人關係

(五十四歲)

原本校了

肉阿弥陀如來本願有幾耶 講卷云雙觀經中說四十八誓願

也或一經中說二十四誓願事有之是皆檢見不同故不可

和會也

結緣四衆也

講卷云比丘等四衆其義旅故解釋受此文釋發起影白當機

肉經文云今時世尊四衆圍遶之所四衆者可指比丘等四衆耶

建長六年正月十八日

昭和

32 年 1 月 25 日

二校了

1363

P 2

函
号
册

5

10

15

20

25

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

五月三日院最勝講參

諸御願已出華嚴字論義校

上
自永保
至永享

〇冊子本

113
17
1

建長元年

半角

第二日

朝庭講師法印權大僧都宗性

向者法印前

權大僧都信義

向十週向位六決定中有幾決定耶

答香象大師有觀相大衆

不説約三決定釈也

〇略

向香象大師二乘天眼所見分有引智論説介者大摩辟支傳

天眼可見三千界外耶

答不可見三千界外也

〇略

建長六年五月三日

昭和 年 月 調

諸宗疑由論義校

三十一

建長六年

〇冊子本

113
18
22-4

端書

↑ 6 12 年

建長六年仙洞宸勝講宗性由信錄法印

住當位

肉經文。且圓教意初住分無昇通於初住論之歟。諸答云此
事雖有所可思慮圓教意後入位斷惑之旨故初住無昇道於
初住當位可論之也。

端書

〇前項三合

習

肉天台一家意別教十行出假菩薩為化他可唱圓無作四聖諦
耶。答此事雖多上古異義暫可存別教十行出假菩薩為
化他不習圓無作四聖諦云義也。

二校了

1364

P 3

建長六年五月三日

昭和

32

年

85

25

月

調

二校了

P 4

F 1365

函
号
冊

建永六年
五月三日

昭和
年
月
調

石鍊校

国史大系本

五月二日癸酉
院最勝講初日也
攝政已下
参之

9

已

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

二校了

1366

P 5

建長六年五月三日

昭和 年 月 調

國
号
冊

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

諸字疑由海義本抄

(端書)

↑ 624

九

建長之年

○冊子本

113
19
9-8

建長六年仙洞寂勝講之時智因法師印拳之末用之
向戸訶止觀所明次第觀中道為別教意將如何耶

9

○下略

二校了

1367

P6

建長六年 丑月 廿日

五月十四日

後高倉法皇御忌御人講

諸厚疑問海義校

(端書)

↑ 6 8 1

三土

建長六年

〇冊子本

113
18
22-21

(年譜)

宗性上人關係

原本校了

建長六年後高倉院御人講 宗性由長俊法印

肉經文云 介時留構那多羅尼子 又 介者 留構那者可自得名

耶 答可有二意也

〇下略

(端書) 〇前項ニ合

肉人記品疏中云若重若勝應同上流何意在此若如引象二人

在上數中獲記何意居下 又 介者二箇問坎 答 解釋難思故

可存二意也

〇下略

7P

昭和 32 年 4 月 25 日 調

五月十七日京都押小路享極宿所ニ次第觀技ヲ拔ス

【次第觀中道觀技】

○冊子本

113
70
1

(表題)

↑ 6 12 1

次第觀中道觀技

(奥書)

↑ 6 12 1

權大僧都宗性

連長六年五月十七日申於押小路享極宿所書寫之畢自二

日被行仙洞最勝講之時予於此曆寺信義法印疑由別教十

行出假菩薩為化他學田教無作四諦歟云論義之時乃學彼

論義再時又義自同弄智因法印之許借請三觀義字立拔并

要又拔之次此題為去年弘誓院人講因用論義之間為備後

覽聊所書也願以此天台字義替古習學之微功必為彼所

勒為尊值遇結緣之業因矣

建長六年五月十七日

二校了

P 17

1368

二校了

E 1369

P7

國
号
冊

建長六年 五月十七日

昭和 年 月 日

8
但し仙洞最勝様ニ参スルニト五月三日ノ参ニ見ユ

8p
三觀類聚 嘉祿四年法成寺 淨金剛院
建長六年五月十七日申時於押小路京極宿所書之

6p
綴目端書

9
右筆華嚴居士華法印字性
年 齡 五 十 三
夏 薦 四 十 一

(年 譜)

宗性上人關係資料集原稿

二校了

P 9

1370

建長六年五月二十日

昭和 年 月 日

五月二十日最勝講ニ参る

華嚴宗文義抄(六) 〇冊子本 12/ 35 1

(端書) ↑ 6年

建長六年最勝講公海肉字 性 6月

肉香象大師解尺中旨 文殊師利菩薩阿難海於鐵圍山結集

摩訶衍藏文今者依何論說證此義耶 答香象大師引智論

說證此義也 〇下略

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

二校了

1371

函

号

冊

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

5

12

10

20

25

諸師願已出華嚴宗論義抄上

自示修三年夏
文の年夏

○冊子本

113
117
1

最勝講

○中略

17

8

9

建長六年

初日

夕座講師法印權大僧都宗性

因着公海

因經文。請淳大師判三身四智相提介者如觀察智如何依之

耶

答清淳大師秘妙觀察智此通四身也

○下略

17

因香象大師解尺中文殊子阿難於鐵圍山結集广詞衍藏又

介者引何論說證之耶

答香象大師引智論證此義也

○下略

17

建長六年五月二十二日

昭和 年 月 調

後三月三日⁵ 尊勝院¹²ニテ別教十行出假菩薩¹⁰抄ヲ¹⁵抄ス

別教十行出假菩薩抄⁹
○冊子本

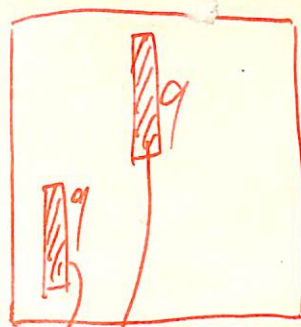
113
69
1

(表題) ↑ 6年

別教十行出假菩薩抄⁷

(奥書)

權大僧都宗性



1372

二校了

P 10

9

建長六年後五月二十三日^西時於東大寺尊勝院中堂正面
書寫之畢自去五月二日被始行仙洞最勝講又應勅喚之間
宗性対延曆寺信美法印勤仕初座内着之時疑内別教十行
出假菩薩名化他學問田教無作四諦次云論義畢仍其時爲
學此論義文義自同并智同法印之許雖借請三觀義字立抄
并要又抄日來之間依腫物所勞空遊學窓不及書寫之而今
佛神垂與助所勞得平處之間且仰仙法結縁之有驗且勞修
建長六年五月二十三日

昭和 年 月 調

二校了

1373

P //

建長六年五月二十三日

昭和 年 月 調

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

學微功之不空、雖未出病席、曝眼於天台之教、雖未復本身染
 筆於遺首之水、此論義處、許所書寫曲之也、後覽之輩、可哀其
 志矣、願依今修學之勤勞、願答今右筆之微功、臨終正念、速遂
 往生於兜率之秋雲、極感託契必南惠解於龍華之春日而已

右筆華嚴宗末葉法印宗性

年終五十三

夏曆四十一

（續目端事）

十三 建長六年五月九日酉時於押小路享極宿所書之了、宗性

二校了

1374

P/2

函
号
冊

(年、譜)

宗性上人関係資料集原稿

20

25

七月三日

法勝寺御八講ニ参入

法勝寺御八講肉卷記

十三

〇冊子本

113
217
17-13

建長元年法勝寺御八講肉卷記

上卿

四条大納言隆親

奉行

左少弁雅言

惣在方

威儀師清紹

公文

從儀師實賢

證義者

興福寺權別當法印前大僧都良盛初

智田二

法印前權大僧都

講師

良盛五

智田七

法印權大僧都淳性十

權大僧都実性三

權少僧都兼源七

室戸四

房洲四

權律師堂縁二

長親初

大法師信超四

建長元年七月三日

昭和
年
月
調

二校了

1375

P 13

9

建武六年七月三日

昭和 年 月 調

函
号
冊

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

25

南白殿下義平 内大臣公親 四季大納言降執

今卿

兄願 法印前權大僧都良盛 三礼大法師信超

行香

口口

満答明々也 聲

誠

下座澄義者云 澄義為講師之時 無量難者創也 其上

初日

朝座講師良盛

因者祐義在表白

尊愉寺新

宇原新東

經全寺新

定永三山

親性寺新

祐義山新

実實 = 興

源覚山新

公禪三興

行實興

聽衆

二校了

1376

P14

函
号
册

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

右大將公基 烏丸中納言資季

右衛門督為氏 修理大夫隆行 軍宰相時繼

幕座講師宗性 同者源覺

肉經文。宗家解釋中判一代教時多出古師解見今者立藏通
別四四教事誰人義耶。答智者禪師義判也。○下略 7P
肉瓔珞經所說信精進華十心者即菩薩次位也可云耶。答
或有次位之虞或有不然之文也。○下略 7P

第五日郭在講師信超 同者經金

幕座講師智圓 同者東實

建長 六年 七月 二日

昭和 年 月 日

二校了

1377

P/5

9

函
号
冊

第二日

朝座講師

實性

向者尊厳

暮座講師 兼源

向者公禪

第三日

朝座講師 宗舜

向者行寛

暮座講師 彦判

当用

向者定源

第四日

朝座講師 堂縁

向者親性

暮座講師 長物

向者覚象

第五日

康長六年 七月三日

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

昭和
年
月
調

二校了

1378

P/6

函
号
册

下座澄義者云
即敬澄教者
兼講師之時
進立室難者例

1.9

建長

六年七月三日

昭和

年

月調

御布施

原本校了

大講師親性

圓

供養法

法印前權大納言智田

例時調聲

本

宰相

実尚

従三位

新宰相伊頼

權中納言通行

花山院中納言通雅

左兵衛督房名

公御

比

華

兄願

法印權大僧都良盛

三礼大講師信超

行香

朝座講師信超

肉者經全

其上講答明々也

聲聲

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

二校了

1379

函
号
册

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

25

諸御願已出華嚴宗論義抄

上

自永保三年夏
至文永三年夏

〇冊子本

113
117
1

法勝寺師人講

〇中畧

7p

建長六年

初日 暮座講師法印権大僧都宗性

因者源寛

〇但し同卷ノ要文ハ法勝寺師人講同卷記三(1132/1173)ト異ルナキヲ以テ略ス

8

8

昭和
年
月
調

二校了

1380

P/8

建長六年七月 日

昭和 年 月 調

頭
号
冊

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

20

25

是月

最勝光院御入講ニ参不

諸字疑肉論義抄

三十一

建長六年

〇冊子本

113
18
22-24

端書

建長六年七月最勝光院御入講字性肉尊海諸印

肉無量義經中可有忍善根得益耶 答經文不~~以~~奉之也

〇下略

端書 〇前項三全

肉無量義經法華經一會說欵

答非二會說也

〇下略

二校了

1381

P 19

皇表六年八月日

昭和 年 月 調

函 号 冊

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

10

15

20

25

八月 是月

西園寺八講ニ参る

諸字疑由論義按(三十一) 建書云耳

○冊子本

113
18
22-21

(端書)

建表六年八月西園寺八講宗性由頼田大僧都

肉經又云遠塵離垢於諸法中得法眼淨又今若法眼淨益者大
乘得益歟 答云贊中釋小乘初果益也

○下略

(端書) 〇ニ前項ニ合シ

肉釋尊出世為第九住劫為當第一住劫歟 答或云第九住劫或
云第一住劫慈恩大師處處解狀非一唯也 略其中第一住
劫云釋尊可為所存實義也

○下略

二校了

1382

P20

九月十八日

陰明門陀即忘即八講

諸宗疑由論義救主

建長三年

○冊子本

113
18
22-24

(端書)

建長六年前陰明門陀即八講宗性肉智田誦印

肉經文云是德藏菩薩次當作佛子曰淨身又今者淨身佛成道

為過去當未來歟諸講答云思此事可有二義也或可云

過去佛也經文說過去無量無邊不可思議阿僧祇劫事故也

但於一經文未來佛中列之者考異解同名佛歟或又就

今經文說相未來佛中列之歟○下略

(端書) ○前項三合

肉未藏心者所作善根可為成佛因耶講答云萬善皆為成佛

因故未藏心者所作善根可為成佛因也○下略

建長六年十二月 日

昭和 年 月 調

(年譜)

宗性上人関

原本校了

1383

P /

9

明本欽日記

明本欽十三卷

下上
煉六卷

供

中失

明本按日記并明本要目錄

表題(集) 集 紺紙 金派三

明本校日記并明本要目録

卷之本

103
94
11-1

九月二十五日尊勝院三明本抄ヲ抄シ始ム

宗性上人関係資料集原稿

26

25

暗推之愚欽也。拾舊草副新案終篇之後未及再治。然而苟思
利益我心不穢書者只一部也。兩人事難拾仍以上快卷七奉東
北隄僧都以下快卷六奉光明隄律師。兩人互議可令書寫殘卷
各御現存之面都勿增成二本將來付囑之人備可簡法器心
性若自門之中無真庚之器者當時傳受三人之內隨間可令

帙

供

1. 附件

一 揸

帙

昭和
年
月調

二校了

P 2

1384

函
号
冊

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

9

相讓此書良筆既書寫畢錄出之間彼切莫大之故也抑此

遺言之趣外人聞之者偏處慢心或處法慳欵全非其義尋思

故事付借付其懼非一仍世間只以不知此名字為望然者

各師自筆可令書寫病及為切不能右筆之狀如件

建曆二年十二月二十三日

沙門在御判

明本要目録

相違因
之因義猶帶即因義

通局對

昭和
年
月
日

三重対中必可有諸法本真躰義道理

躰門義葦四類事

纂要此文且約躰義一門葦文斷簡

先後對證文

佛地論兼說三重対事

現比二量傳今案此事猶可沉思

法自相敵者

勝論傳衆多道理限瓶之外具不可授上

子嶋疏記九句義記俱存勝論事

九句不对立傳雖非子嶋丈順纂文

三松傳愚推光明腹堅義用之歟

然而不可披露

昭和
年
月
調

二校了

1386

P 4

9

函
号
册

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

道詮傳人多不受然微妙韻也

法差別

勝方五故第二故中又有七故尤可秘之

之所立法

有土義第二為本
第五今宋義可秘

勝々傳取同喻義都無難云事可秘事也

有法自相

一重意許義可書入之故僧都暮年等也

有法能別立加言云事此義猶似背子嶋

能別處諱有法意許義有法差別同

昭和
年
月
調

二校了

1387

P 5

9

函
号
册

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

有法差別

本作法斷箇而室意許傳潤色

子嶋斷道傳義委細不可言用也

一字ナリ

遠三

同異性能有事猶難思

遠四

有法自相特有法有性共許自許事

彼但孝宗

有令案趣大切事也

後三違決

大旨得子嶋傳心畢其中構不定過之旨
尤可秘之節也周記三釋斷箇又似玆

昭和

年

月調

二校了

1388

P 6

函

号

冊

9

三過並不

子嶋傳大都得意肉畢猶可思惟事也
相違因于違決不並義以因改不改知之云事今案也

正所諱故子嶋

第八句合離作法

子嶋傳微效也
可為口傳又未一定固不記之

一分所立不或真過事

因喻法諸義目錄

因初二相辨義相隨原因相隨事古來恐未可出事也
若言眼華諸義難

我他相例事

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

25

昭和 年 月 調

二校了

1389

P 7

函
号
册

9

積聚性因 子嶋傳得意南畢

義准宗

傍義准字傳、穩南畢
別義耳秘之

西域師 依春穩得燈抄意事

共許有 失年軍 耶追合度字能々可沙汰南事也

因亦不滿

付子嶋傳及清北耳難事
又失年軍

因意許

明燈抄得意畢

有法自相能違自他共 子嶋疏記趣沙汰南畢

清并比量有法不極成、年來不寢大様、南畢

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

15

20

25

昭和
年
月
調

二校了

1390

P 8

函
号
册

(年 譜)

宗性上人關係資料集原稿

15

20

25

二華意許必帶言陳年未安

今度不似帶之義又安畢然而逐可記入之作字事
能々可得意

作非有緣性解

斷道之密并傳
諸不身必行差別可沙汰之

有法差別能違作法

今安手
享美哉

同異二品限有能敘事生年字也大旨神效歟

第七回 疎記遺恨釋也而九回私記未曾有也返々可秘釋也

後三相違所立法可重事 後三相違處大旨在之

昭和 年 月 調

缺減過性沙汰 是年於筆置數且評定大旨定畢 是日別義可書入之

明本抄調卷之後外題同題令書御之時此二帷帙之中今
字等可有有意事可書出之由有其仰仍書出於御前書出畢
御評定皆以注畢即點十八箇各着永以不可口外之由深蒙
所誠又一題內有衆多又理事人一度一人教事無下
事也道理一兩究竟證文一ツ別々可沙汰之設設付屬理
瓶之鮓先後可沙汰加也是一又或自鮓云或他人教
令云事今披露云ハトテ宸秘事人易云ヒチラ不事
永不可有事也其義趣用タトモ打圍葺處不窮其
源底事也又雖有得意窮人其一人二人也是三又舊
草(丸)物(丸)為堅義人乞請取出事及々不可有良忠事被仰出

二校了

1392

P 10

9

事也^是三⁵ 又貴人^三六¹⁰借^手樣^ナ事^ナ奉教事^ハ無益事也^易々^ハ
有事^ハ行々^トアル^ヲ可沙汰也^是四¹⁵ 又物^ヲ人^ニ沙汰也^ハ猶^モ奥^ニ有^ル
見^スル^ハ事^ハ不可有事也^其故^ハ今事^ヲ令^レ輕故也^但此事^ヲ沙汰^セ
之^ハ時^ニ令^レ輕氣^ナ人^ノ前^ニ又^モ存^リケ^ル可^レ令^レ見也^是五^{8P}此目^ハ
銀^ハ大^ニ切^ニ可^レ存事也^後二¹⁰光明院^ニ等^ニ可^レ申請書^レ一枚^ハ可^レ遣^ス
也

以上^ハ条々^ハ御前^ニ兼^テ及^テ事^ヲ書付也^後可^レ書直之^ハ

建曆二年九月晦日^ハ持明本^ニ按^テ考^ヘ海住山^ニ其日^ハ不入^ル見^テ參^ル無言^ニ
之^ハ由^ニ被^テ仰^ル出^ル畢^ニ以^テ愚^ニ札^ニ明^ニ本^ニ調^ヒ卷^ニ之^ハ由^ニ令^レ申^ス之^ハ處^ニ明^ニ朝^ニ可^レ来^ル之^ハ
由^ニ有^ル其^ハ仰^ル仍^モ次日^ハ十月^ハ一日^ハ参^リ向^テ老宿^ニ房^ニ仰^ル云^ハ雖^モ無^ク言^フ此^ハ事^ハ別^ニ事^ナ
也^{申^ス請^フ大^ニ明^ニ神^ニ也^{可^レ見^ル被^テ仰^ル仍^モ進^ル畢^ニ一^ニ返^リ經^テ御^ニ覽^ス之^ハ後^ニ數^ニ刻^ハ御^ニ}}

昭和 年 月 日

落淚其名⁵可明本抄其故¹⁰一明之本也¹⁵因明之本志在此²⁰
書故²⁵此釋³⁰有恐³⁵欽⁴⁰二明本⁴⁵者菩提⁵⁰阿本抄也⁵⁵明者重⁶⁰
令明顯之義也⁶⁵海住山⁷⁰付⁷⁵タリ⁸⁰モ有⁸⁵二義⁹⁰海⁹⁵觀音¹⁰⁰誓願¹⁰⁵
海也其誓願¹¹⁰安住¹¹⁵義也又補陀落¹²⁰海中¹²⁵住¹³⁰擬彼山也¹³⁵
又海¹⁴⁰字¹⁴⁵水¹⁵⁰每¹⁵⁵ツナリト書¹⁶⁰去¹⁶⁵望置¹⁷⁰末此山¹⁷⁵之處¹⁸⁰又無水¹⁸⁵
仍愚身之祝也住者人¹⁹⁰主¹⁹⁵ヌレタリト書²⁰⁰山中²⁰⁵荒²¹⁰多畜類²¹⁵
住處也此山²²⁰當²²⁵来²³⁰マテ人主²³⁵タレト思²⁴⁰故又用此字也²⁴⁵
此技出助成之功²⁵⁰現世²⁵⁵不可報²⁶⁰之若生佛土²⁶⁵之時²⁷⁰佛²⁷⁵申²⁸⁰テ
先世²⁸⁵思²⁹⁰ヲ自身²⁹⁵不堪³⁰⁰彼人³⁰⁵大惠³¹⁰令³¹⁵用³²⁰我³²⁵令³³⁰発³³⁵大³⁴⁰心³⁴⁵給³⁵⁰申³⁵⁵テ
佛力³⁶⁰何不加³⁶⁵被³⁷⁰給³⁷⁵哉³⁸⁰以此³⁸⁵必³⁹⁰可³⁹⁵為⁴⁰⁰報⁴⁰⁵謝⁴¹⁰之端⁴¹⁵其⁴²⁰後⁴²⁵數⁴³⁰刻⁴³⁵脚
落淚⁴⁴⁰此事⁴⁴⁵一⁴⁵⁰期⁴⁵⁵之⁴⁶⁰内⁴⁶⁵大⁴⁷⁰禪⁴⁷⁵事⁴⁸⁰也⁴⁸⁵アハレ⁴⁹⁰此⁴⁹⁵事⁵⁰⁰ヲ⁵⁰⁵未⁵¹⁰光明⁵¹⁵
陋⁵²⁰耳⁵²⁵沙⁵³⁰汰⁵³⁵セ⁵⁴⁰ハヤ⁵⁴⁵若⁵⁵⁰不⁵⁵⁵叶⁵⁶⁰者⁵⁶⁵時⁵⁷⁰々⁵⁷⁵諸⁵⁸⁰申⁵⁸⁵ス⁵⁹⁰キ⁵⁹⁵也⁶⁰⁰

二校了

E 1394

P 12

頭
号
冊

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

又東北隅侍從得業⁵短命人也¹⁰然而今年ノ夏見¹⁵無下²⁰不見²⁵真³⁰厚³⁵修⁴⁰学者也⁴⁵遣相證性⁵⁰沙汰⁵⁵シタリ⁶⁰シテ次日草⁶⁵持来⁷⁰見⁷⁵之⁸⁰云⁸⁵筆⁹⁰云⁹⁵義¹⁰⁰勢¹⁰⁵非¹¹⁰普通事¹¹⁵因明事¹²⁰可得意¹²⁵南¹³⁰躰也¹³⁵必可教¹⁴⁰之

以上¹⁴⁵彼座¹⁵⁰尋々¹⁵⁵仰¹⁶⁰之¹⁶⁵旨¹⁷⁰後日¹⁷⁵憶念¹⁸⁰記¹⁸⁵之¹⁹⁰同月三日¹⁹⁵矢如形書付²⁰⁰之後²⁰⁵可能書²¹⁰之

同三年三月一日²¹⁵於海住山書寫畢²²⁰皮師上人中²²⁵陰四七之後朝也²³⁰每²³⁵固²⁴⁰願²⁴⁵命²⁵⁰斷²⁵⁵哀²⁶⁰惜²⁶⁵賜

顧

假名比丘堂遍

昭和
年
月
調

建長三年九月十五日

二校

32

1335

上細御消寫狀

由

之

由

以

思

狀

入

奏

同

十

一

日

若

却

被

借

日暮返上光明限上綱之

預

部三十一卷書寫終其功之後

後

結

究

所

書

寫

第

七

卷

等畢自去年暮秋之

畢

自

去

年

暮

秋

之

候

至

今

年

中

冬

天

建長七年卯乙卯中冬十月十七日

與

書

↓

6

1

建長七年卯乙卯中冬十月十七日

建長七年卯乙卯中冬十月十七日

108 9 11

建長七年卯乙卯中冬十月十七日

P23



9

74

夏曆四十二

三十八

書四
參照

© Hiraoka Shosha

二校了 1397

P

函
号
冊

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

20

25

明本録日記并明本要目録
表題
0冊子本
124
37
1

明本録日記并明本要目録

擬講隆慶

8P
0但し明本抄(1039411)ト同文モノハ略ス、又々本書ハ定期、空本ナリ

本奥書
16P

7P

9P
文永三年五月廿四日申於東大寺鼓坂以尊勝院佛本書寫
此録乃重寶之今日記明白也同以此日記送千在
世無有敗損矣

華嚴宗權律師聖禪

藏之十六
藏之十二

昭和

月調

No.

二校了

1398

P

函

号

冊

9

同年月廿五日
時於同處以御本委交畢

5

10

15

20

25

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

昭和
年
月
調

二校了

1399

P27

建長六年九月二十五日

昭和 年 月 調

建長六年甲申九月二十五日申於東大寺尊勝院中堂東廊
 馳筆畢抑此鈔者因明第一之秘書也彼笠置寺上人存日
 即門弟未必見之 明福寺習學因明之碩德亦無伺之既
 於上人滅後之絲弟哉吹於他門愚庸庸庸之未學哉而宗
 性習學因明之志深依銘于心肝去嘉祿元年初冬之比入
 光明腹上細寫遍之門室之後年々歲々學之漸々厚々嗜

(與書)

6年

前陳後說對 言陳意許對

明本校 第一

(表題)

紺紙三金泥下書

明本校

8p

○卷子本

103
94
11-2

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

二校了

E 1400

P 25

函

号

冊

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

9

之三十年間其志頗顯之故去十三日先借賜此第一卷

第欲借之今可書寫一部十三卷之由被仰下畢年來修

學之本意於茲滿足今生一期之思出只有此事仍暫閣俱

舍故出之勤偏運此致書寫之今日今時所書訖此卷也

仰願依此微叩答此慰志更後終焉之暮後魂於此奉之雲

為卑下生之曉用倍於龍華三月矣

右筆華嚴宗末葉法印權大僧都宗

性

年齡五十三

夏曆四十一

建長六年九月二十五日

昭和 年 月 調

函

号

冊

二校了

p26

1401

康平六年九月二十五日

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

25

同日同時於同所加一交畢

建治元年(宗性自筆)七月二十四日

晒於東大寺尊勝院本堂令讀

南朝海如圓房畢

前權僧正 宗性

弘安九年(丙戌)九月九日於孝思院以本所之本一交了

法印權大僧都印寛

〇但レ

(大正藏之九・三八一四七)参照

昭和 年 月 日

二校了

1402

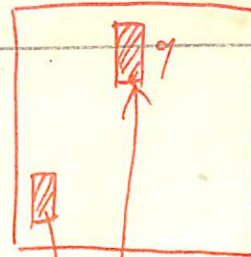
P

函
号
册

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

25



6号

6号

明本抄

5

〇冊子本

10

15

20

124
36
13-1

明本抄第一

授講隆慶

〇但シ宗性ノ官本ノ真事ハ略ス

弘長三年七月一日時、於東大寺敷坂住房令書写畢、

其志只目前、今生修得第一具加取譬無物、願云永老并

為重寶、雖送千佛出世無敗而已、

同日酉時於同處加一文了、

華嚴宗授講聖禪

四十八

大正藏九

三三二 P 411

參照

昭和
年
月
測

二校了

1403

P217

建長 六年九月十五日

函
号
冊

明本校

○卷子本

103
94
11-3

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

(表題) 6p

明本校 第二

東書

(東表傳)

本奥書 6p

法自相

6p

酉

建長六年甲寅九月二十九日

時西

於東大寺尊勝院中堂東廊

馳筆畢

宿縁所傳相傳此抄喜悅之餘終日書寫仰願以

此習學因明之微功必為值遇尊師之業因矣

右筆華嚴宗末葉法印權大僧都宗

性 9p

年 齡 五 十 三

夏 藹 四 十 一

二校了
P 28

E 1404

建表元年九月二十九日

昭和 年 月 調

0組シ

(大正藏元九・三三・四三)冬照

68年

寛

9P

法印權大僧都印寛

弘安九年九月九日於孝思院以光明院之本交合了

(奥書) ↑ 6年 7P

堂對朝海如圓房奉讀之畢
前權僧正宗性

9P

建治元年六月十八日申於東大寺興勝院新建立

(奥書) (宗性自筆) ↑ 6年

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

二校了

1405

P

明
本
冊

(表題) 8P

明本鈔第二 9P

模講隆慶 9P

明本抄

冊子本 8P

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

124
36
17-2

20

25

(奥書)

但宗性寫本與書人前書ト同文ノミ略ス

正嘉二年八月十日 抄書寫之了 却以厚本委加交點了 抑此

鈔者難聞名字 況於書寫半可謂因明值遇不淺故也可悅可
悅願云此書永為吾寺重寶遠至千佛出世矣

大法師聖禪

四十五
三十八
8P

弘長二年九月二十六日 未 於蓮勝院即經藏以彼即本重

交點了 以庚子書寫本文字不審多之 仍重能能交點了

模講

聖禪

四十六
三十一
8P

昭和 年 月 調

No.

二校了

E 1406

函
号
册

〇但レ

(大正蔵
え九・三
P
432
冬昭

5

10

15

20

25

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

昭和
年
月
調

〔宗性上人研究会〕

1407

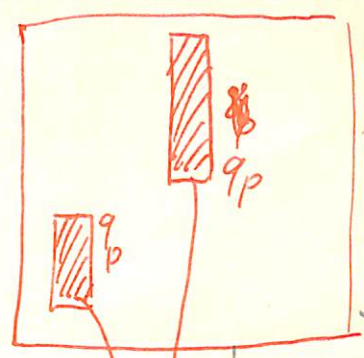
函
号
册

(年 譜)

宗性上人關係資料集原稿

明本抄 ③ 8p
母子本 9p

124
36
13-3



明本抄第三
内題
法差別
6p 9p

撤講隆慶

(奥書) ↑ 6年

建長六年 甲子十月二十九日 時西 於東大寺尊勝院中堂東廊馳筆畢

去九月晦日書始此卷之後或乃多勤土御内卿人講趣洛陽

或為聽聞維摩大會之決擇移興福寺如此之事連連依計會

當卷書厚遲々及今時後學之輩宜令推察焉 仰願以習學

因明之微功必為值遇慈尊之業因矣

微 右筆華嚴宗末葉法印權大僧都厚性

昭和 年 月 調

二校了

E 1408

P

納
号
冊

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

5

10

15

20

25

正嘉三年四月十四日

午時始

書寫了

大法師聖禪

五十七
四十三

八

始自四月十二日終至同十四日書寫了。或取意注之。或任本
書之。但多分任本書之了。為終功少々以大意任之了。
是備大明神御冥助。喜之中喜何事如之哉。

文應元年九月二十日申。以尊勝院御本。

注置

之持卷文了。

昭和

年

月調

No.

三校了

1409

P

函

号

冊

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

5

10

15

20

25

〇 俚
シ

(大正藏
之九・三三
P 438)
参照

大律師聖禪

四十五

昭和
年
月
調

二校了

1410

P29

9p

建表六年九月二十五日

昭和 年 月 日

建表六年甲寅十一月六日
 筆畢 宿緣所惟相傳此技喜悅徹骨自受銘肝之間勵徵
 志 專丹棘於黃鐘三月凌極寒淅紫毫於金池之水以寫
 寂秋底之重書以爲今生涯之果出矣 仰願大聖慈尊伏
 乞春日權現照此習學因明之志哀此紹隆佛法之勤一期
 終焉之暮尊神魂於坎牽天之秋雲三層下在之曉施引接

本奥書

↑ 6号

明本技

第四

有法自相

(裏表紙)

(表題)

。紺紙三金泥三書六

明本技

(四)

○卷子本

103

94

11-4

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

函
号
冊

二校了

1411

p 30

庚辰 元年九月二十五日

昭和 年 月 調

8P
小堂対
如圓房朝海
談之畢
又示十二年
四月十七日
於東大寺尊勝院新建立

(奥書)

(宗性自筆)

6127

前権僧正宗性

9P
右筆華嚴宗末葉法印権大僧都京

於龍華樹之春風而已

年齡五十三

夏曆四十一

(性) 7P

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

1412

P 31

二校了

(與書)

10

(年譜)

15

宗性上人關係資料集

20

讀

25

康長六年九月二十五日

〇但

正藏之九・三二P 442 参照

8P

弘安九年

戊戌

九月

廿一日

於

孝男

院

以

光明

院

之本

一交了

本所

法印權大僧都印寛

法印權大僧都印寛

今更相傳之間悦喜余身了

之了

此

校

得

事

雖

悦

凉

輝

不

受

師

傳

弘安

六年

六月

日

曲

角

院

奉

封

上

綱

以

定

竹林院

以

定

真

得

某

二校了

1413

組
シ

月
日

歸於同處以爲本委文監畢

大正藏
九
三三
P
443
卷四

表題) 6p
 明本鈔第四
 (奥書) 6p
 元 〇但シ字性ノ字本ノ奥書ハ前書ト同又ノ故略ス
 正之 〇耳之月七日 〇時 〇於東大寺 〇尊勝院中 〇即堂 〇蒙 〇即許 〇拭 〇老眼
 馳筆畢了 〇雖志願舊永為五口寺之皇寶送千佛出世無有敗損
 矣

奧書

明本欽第四

時午

擬講隆慶

大律師聖禪

歲五十八
蔣四十四

87

明本欽

四
8P
0
四子本

大食本字藏本

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

124
36
13-4

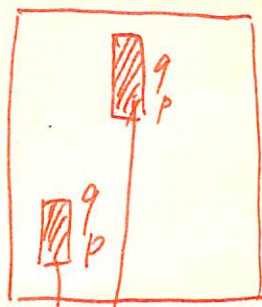
二校了 1414

P

函
号
册

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿



明本筆技 (五) 〇冊子本

看版 ↑ 6 12 十

明本抄第五

内題 7 6 十

有法差別 9 p

(與書) ↑ 6 十

掾講隆度

果香木持本

124
36
13-5

9p
建長六年(甲子)十一月二十日(申時)於東大寺尊勝院中堂東廊
馳筆畢以此因明之相義備為今生修學之思出依此書得
之微功必遂未世得脱之願望矣

右筆華嚴字末葉法印權大僧都字性

年 齡 五 十 三

昭和 年 月 調

二校了

P

1415

國
号
冊

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

9P

實之二年十月七日時^{己巳}於東大寺中隱耽筆了此書者是祖師
上人之御草秘藏無極之重寶也而有土月今光明隱士細之
脚房之處相兼之畢仍為後覽自昨日朝始之今時字了門
跡之輩他可秘藏矣

權少僧都原性記之

同日時未訛實弘法師一交了此御日記正本無之

夏藤四土

昭和
年
月
調

E 1416

P

函

号

冊

5

10

15

20

25

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

東福寺中

實元二年十月十三日^時於興福寺南戒壇院宿所^次光明院
御自筆之本^午自一^次了自他^故二^次了



権少僧都宗性

文應元年九月十八日^時於尊勝院^中堂南面^次彼^院主政所
御本^藏御許書^厚耳^了四相違此時令^満足了喜悅^思滿^隨喜
決^浮眼^次以此^志於大堂勤精義^一肉^場名^施面^目矣

大律師聖禪

五十九
四十九
8P

昭和 年 月 日

二校了

1417

P

函

号

冊

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

25

同日脚以彼師本寺一了。講師今明之^間可被宣下
之由其間在之染心肝書交之了。

〇但レ

(大正藏

九九

・三三

P

449

)参照

昭和

年

月調

二校了

P 52 1418

津長年九月二十五日

昭和
年
月
調

文曆二年四月六日 於三条万里小路宿所書寫畢 老眠
歡教賞春夜猶長 仍桃桃殘更三燈 終入木之功 于時鳥鐘
之聲頻報鷄籥 山之將曙矣
因明老學賞遍

鳥 籠

寫本云

(本奥書)

6年

明本校 第六

(因違三)

一因違四

(表題)

6年 紺紙二金泥三書入

明本校

6年

○卷子本

103
94
11-5

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

二校了

1419

P33

9P

建永六年九月二十九日

昭和

年

月

日

連長七年9P乙四月二十六日已曉於東大寺尊勝院中堂東序
 馳筆畢。此卷者去年窮冬之初申出而書始之而件比勤
 仕探玄記第十九卷淡義讀師之間全無其隙空馳過畢。
 同窮冬下同二十四日多年同法實弘法師所勞責伏以
 入滅悲歎之思有餘乙追善之勤無隙則自窮冬晦日乙移住知
 足院別所乙故實弘法師之菴室自當年正月一日至同二月
 晦日乙于此知足院別所住乙修信上人等諸共習學華嚴經善
 賢十願之處別行疏并義記乙抄出彼要文之間依無寸陰之
 餘暇不及此抄之書寫其後三月上旬之比乙巡礼花洛西山

5

10

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

20

25

二校了

1420

P34

9P

建表元年九月二十九日

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

追之靈地同月中下旬之候參詣橘尾寺并高野山之向

又依無其隙不及書寫之而今執行去年願方探去元三十

講又預仙洞寂勝講御清諸事計會雖無心隙志却之餘書

寫之畢仰願以此習學因明之微功必上生於院之業因

疾

右筆華嚴宗末葉法印權大僧都宗性

年五十四

夏藤四十二

昭和

年

月調

二校了

1421

P 35

國
号
冊

建長六年九月十五日

昭和 年 月 日

94 34 安久年 <u>未</u> 癸 七月十七日 為角腹以此本交合了 清印權大僧都印寛	9 建長四年正月廿一日 夜曉書了 定真	9P 全讀國朝海如圓房畢 前權備正 宗性	6号 建治元年 <u>亥</u> 乙 六月二十七日 <u>時申</u> 於東大寺蓮勝院本堂 宗性上人關係資料集原稿
--	--	---	--

願
号
冊

二校了

1422
P 36

建表 六年九月十五日

昭和 年 月 調

留シ (大正藏 五九・三三P 45) 参照

8p

9p

34 年 九 月 成 丙 九 月 十 一 日 於 孝 恩 院 以 光 明 院 之 本 一 交

本所

法印權大僧都印寛

生年四五

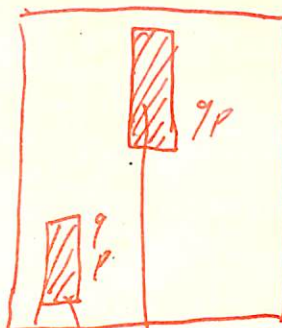
(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

二校了

P

1423



明本校 豊 〇冊子本

(表題) ↑ 6P

明本鈔第六

(奥書)

〇但シ字性

〇但シ字性、本奥書ハ前書ト同又ノ故略又

擬講隆慶

弘長元年五月十二日 尊勝院御経藏書寫了 弘長書院
御人講題之内申出書畢

擬講聖禪

〇但シ字性 四十六 8P

即同時以尊勝院 御本 交點了

〇但シ(大正藏スル・三二P 45)

参照

124
36
13-6

昭和 年 月 調

函
号
册

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

15

20

二校了

1424

P 317

建表六年九月二十五日

去年春暮秋之候始被許此御釵今年中冬之天經奉寫共

建長七年乙未十一月八日
未時
東大寺尊勝院中堂東廊
筆畢

因明未學覽編

文曆二年四月十七日書字畢一校畢

字本云
三里山文相掩
十五因癸立

(本奥書)

(裏表紙)

明本按

第七

表題

明本按

8

五

103
94
11-6

二校了

1425

P 38

9P

全部畢...共六月之末於中川地藏院...
至第十三卷不得

唯書寫之

唯第七卷

其本...是則菩提山權僧正尊信有御借用此卷故也而此

程被送之內申請而寫之畢後久送而迴之

署署遂終一部之書字...以之為今生修學之思出何不為未

在得脫之良因哉...仰願依此修學之微功答此因明之結

緣一期終焉之著...遂往坐於兜率之秋雲三會下生之曉

開...解於龍華之春梢笑

右筆華嚴宗末葉法印權大僧都宗性

年齡五十四

虛表 元年九月二十五日

昭和 年 月 調

二校

了 1426

P 39

庫表 元年九月二十五日

昭和 年 月 日

〇但レ(大正藏
八九・三六
P 461)参照
8p

弘
字
九
年
成
兩
九
月
十
二
日
於
孝
恩
院
以
光
明
院
之
奉
交
合
印
所

(與書)
↑ 〇年

夏
九
龍
四
十
二

國
号
冊

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

二校

1427
P

明本抄
七
八
四
本

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

124
36
13-7

表題

明本致第七

(興書)

但シ高性

厚本自書ハ前書ト同文ノ故略ス

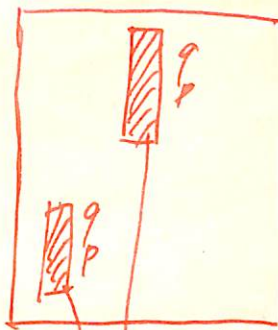
擬講隆度

文應元年九月二日
時今書寫之畢
同時以御本委之了

大法師聖禪

四十九
八
八
P

9P
8P



昭和
年
月
調

二校 1428

9p

諸無似立
非喻追故
第八句
正所詳故
法自相下

聲生論師立勤勇因歟
因喻之法
改聲無常

(裏表紙) 〇全副

明本抄第八

(表題) 〇但シ重紙紙ニ金泥ニテ書ク

明本抄

〇卷子本

103
94
11-7

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

昭和 年 月 調

二校了

1429

P

70

9p

建表元年九月二十五日

昭和

年

月

調

詣因明習学之内院矣

今生既遂因明習学之願

依此書字之敬功
未在必

而令聊依得其隙忘他事書字之畢
以此重書之相承

最勝講御請之間
被妨彼二諦之營
閱此書字之勤

此卷者去孟夏之末
雖中出而書始之件比即示預仙洞

建長七年六月二日
時於東大寺尊勝院中堂東廊
馳筆畢

本圖書
↑ 6号

月
下

明
下

03
4
7

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

二校了

E 1430

P

(U)

建長六年九月二十五日

函
号
册

9P

〇祖
(大正藏之九・三八一P 468)
8p
(孝昭)

交了
法
印
權
大
僧
都
印
寛

弘
安
九
年
戌
酉
九
月
十
三
日
於
孝
恩
院
以
本
所
光
明
院
之
本
一

夏
龍
四
十
二
年
齡
五
十
四

右
筆
華
嚴
宗
末
葉
法
印
權
大
僧
都
宗
性

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

二校了

1431

P

但之宗性一宮本、奥書ハ前書ト同文故略ス、

明本抄

〇冊子本

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

124
36
138

表題

明本抄第八

擬講隆慶

又永二年

丑寅四月八日

時東大寺敷城坂書寫畢

此法自相下

9p

七箇條題之内

第八句諸無似立

先達申出書寫了

所殘立箇

條今所書寫也

因明結縁值遇偏在奉遇此書次

願念念趣事

雖

舊永必吾寺重寶雖送千佛出世時無有敗矣

華嚴宗聖禪

藏之十四

8p

同日申時以宮本拭老眼委交點畢

〇祖

(天正藏六九・三三)

p 48)

參照

昭和
年
月
調

二校了

1432

P

函

号

冊

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

15

20

25

明本抄 九 5 8p

○卷子本 9p 10

103
94
118

(表題) 紺糸金泥三書入

明本抄第九

(裏表紙) 目録

諸差別下

若言眼等

能別不成心帶不共不定欵

爾無同喻

續集性因

意許字四字相掇

若以所思

法差別能違遮表

西域師

以是於眼等

昭和 年 月 調

函
号
册

二校了

1433

P 乙

9p

建永六年 八月二十五日

昭和 年 月 日

建永七年 六月 八日 未時 中川地藏堂書寫之畢 依長
 (本奥書) ↑ 6年 7p
 明神宮 第二 斎
 洲庄新在家 賀茂供祭人相 誦事 去一日 東大寺佛閣開
 乍住侶 隱跡畢 宗性依有其緣 自去四日 朝躬任此 道所馳
 筆也 仰願當未尊師 弥勒慈尊 伏乞伽藍本尊如藏菩薩哀
 愍 此 智古之微功 知見其年未之宿願 一期終焉之慕
 重引接於兜率之秋雲 三會下生之曉 速擲深法於龍華

建永六年 八月二十五日
 1433
 9p
 11p

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

二校了

1434

9p

之春風災

石筆草 嚴宗末葉 法印權大僧都宗

性

年 齡 五 十 四

夏 曆 四 十 二

(奥書)

↑ 6 号

弘安九年丙戌九月十三日 於孝恩院以光册院之本 爰燈下

本所

一 交 了

法印權大僧都印寛

〇但レ

(大正藏 九・三三二 p. 476)

参照

建長六年九月廿五日

昭和 年 月 日

(年 譜)

宗性上人関係資料集原稿

二校了

1430

P

明本鈔第九

表題

勘譜隆慶

明本抄

九

冊子本

宗性上人關係資料集原稿

124
36
13-10

又永二年丑一月一日時辰於東大寺鼓坂住房依預尊勝院令
書寫畢以此書寫之功心遂西方之望華值遇此書得見此鈔
因明結緣定多生宿因歟永為吾寺重寶至于佛之出世矣
同日時於同處以寫本奉交駐畢

華嚴宗擬講聖禪

五十四
藤

8P

但

(大正藏六九

三三

P 476) 参照

昭和

年

月 調

明本校 母 15 8P

○ 卷子本 10 9P

103
94
11-9

(表題) 〇 紺紙ニ金泥ニテ書ス。

明本校第十

(裏表紙) 〇 前ニ金泥

有法自相下

共許有性

而常極微合

如空有聲

有一実因所有堪子孫微欽

因亦不遍

不相用預 因意許有無

能違自他共

同異性能有義

有色有漏

有一実因破文

和合句有無実

有法有性實狹

有一実等三因互或三字或

No.

二校了

1430

昭和 年 月 調

二校了

1437

P 44

9P

建表

六年九

月二十五日

昭和

年

月調

建表七年卯六月十四日時未於中川地藏院本堂馳筆畢。
 聖斷頗遲。衆徒旅嚟々之間。東大寺佛圖干今不用之。
 仍徒卧當山之衆徒送教日之陰。閑之地。依有其暇於。
 此道場亦寫此卷畢。六旬齡頗雖悲。一生涯之殘少三餘。
 志深施勵。四相遠之習學。仰願當來導師。弘勒慈尊。伏乞伽。
 藍本尊地藏菩薩哀慈。此終學之微功。知見其年未之宿願。

(本圖書)

↑ 6月 7P

未

日本書

日本書

3 4 7

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

二校了 1438
P 45

99

建表 元年九月三十日

〇但シ (大正藏之九・三三二P 487) 参照

弘安九年丙戌九月十五日 於孝思院 本所光明院之本一
(奥書) ↑ 6年
交了

法印權大僧都印實

夏曆四十二

年齡五十四

一期之終 兼末迎引接必送神魂於兜率天之秋雲三合之
曉施說法教化速南惠解於諸華樹之春風矣
右筆華岩宗末葉法印權大僧都宗性

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

二校了
P

1439

明本抄

冊子本

宗性上人藏本

124
36
13-10

但し表題本も宗性上人蔵本に與事ハ前項本全目略ス

書題 6 早

明本致第十

極満隆度

(奥書)

但し宗性上人蔵本奥書ハ前項本同又ハ故略ス

文永四年五月十七日

時已

於東大寺鼓坂住房以重勝院御本

蒙御許令書寫畢第十卷之内其許有性同異性能有義因亦

不遍三圖題前年書寫畢所殘餘十箇題今度令書寫了總一

一部十三卷悉令書寫畢於此致者望置上人御房御秘藏無

極此御抄中被盡因明玄府者也爰思佛奉過此御抄終書功

之條非今生始法緣定前世宿業所致也可喜可喜心依此結

縁詣因明習学限二親恩所等志出離生死證大菩提重願

昭和 年 月 調

二校了

L 1440

P

9P

願永為寺重寶雖送千佛出世無有敗損矣

華嚴厚權律師聖禪

歲次十六
藤五十二

8P

歲次十六

藤五十二

未時

同年次日時於同處前後書寫十三題寫本寺如交點畢
遇難遇書喜悅滿胸之故拭老眼書寫交點了而已

已

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

昭和 年 月 調

二校了
P

E 1441

函
号
册

明本抄

十一 9P

○卷子本 9P

(表題)

。紺紙ニ金泥ニテ書ス。

明本抄第十一

(裏表紙) 〇前二頁

有法差別下

和合句別躰有無

作有縁性等訓

作非大有縁躰

有縁性同

作大有縁性有大有能縁歟

有法差別能違作法

103
94
11-10

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

昭和 年 月 調

二校了

1442

P 46

9P

建表六年九月二十五日

昭和 年 月 調

建表七年九月十七日
長州庄所沼依無裁許東大寺内門頗及數日之間於此道
場亦寫此卷畢雖歎幸門之不靜只恨此地之有緣早垂地
裁菩薩難男之引接必遂存勤為尊值遇之宿望若樊牽雲
上若薜蘿林下處々常隨逐大聖或華嚴深義或因明秘蹟
一々速悟解玄旨矣

(本圖書)

↑ 6 12 ↑ 7P

建表七年九月十七日
長州庄所沼依無裁許東大寺内門頗及數日之間於此道
場亦寫此卷畢雖歎幸門之不靜只恨此地之有緣早垂地
裁菩薩難男之引接必遂存勤為尊值遇之宿望若樊牽雲
上若薜蘿林下處々常隨逐大聖或華嚴深義或因明秘蹟
一々速悟解玄旨矣

建表七年九月十七日

○ 建表

103
94
11-10

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

二校了

1443

P 47

建表 六年九月廿五日

昭和 年 月 日

函
号
冊

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

5
10
15
20
25

右筆華嚴宗末葉清印權大僧都京

性
7

年 齡 五 十 四

夏 萌 四 十 二

(奥書)

弘安九年九月十五日 以光明院 本所 一交了

清印權大僧都印實

〇但し

(大正藏大九・三三)

P 493

参照

二校了

P

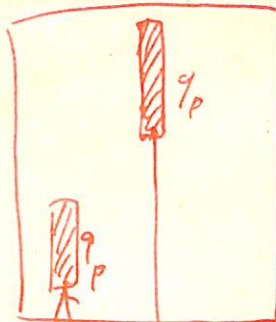
1444

函
号
册

(年 譜)

宗性上人関係資料集原稿

25



明本抄

11 9P

10 9P

日本書院藏本

124
38
13-11

傳説題本も宗性、官本、奥書、前坂、同、故略又

明本抄第十一

擬講隆慶

(真書) 但し宗性、官本、奥書、前坂、同、故略又

9P 文永二年乙卯二月十七日 東大寺鼓坂房書寫畢
同日西時以御本拭老眼委交監畢 7P

華嚴宗擬講 聖禪

六十四

藤五十

昭和 年 月 調

二校了

1445

P

函

号

冊

明本抄

十一 8P

○卷子本 9P 10

(表題)

。紺紙ニ金泥ニ書ス

明本抄第十二

(裏表紙) 〇 目録

後料簡上

自所餘法

論又所説

共比他不定

他比遠他

今觀後三

103
94
11-11

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

15

20

25

以他同爲同

自他共九例

他比自不定

第四第六具二因故

兩性俱不成四相違因

L

昭和 年 月 調

二校了

1446

P 48

9P

授深固菩提心順生定真契奉天內院矣

地藏菩薩哀愍此修學之微功甫幾其年餘之宿願今世早

志更爲觀念之便仰願當來真師孺勤系尊伏乞伽藍本尊

蟬鳴而增山寂之興峯嵐吹而驚林撤宿之夢所催隱遁之

場亦寫此卷畢每聞本寺之喧嘩偏深困居之氣味執中林

東大寺門戶依然猶未聞地藏院多住空送教日之間於此道

建長七年卯乙六月二十一日時西於中川地藏院本堂馳筆畢

(本圖書) ↑ 6 号

7P

7P

函
号
冊

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

3
94
11/11

三校了

1447

P 49

建表
天
平
九
月
二十五日

明石抄三

○研子本

133
146

組シ
大正藏
四六九・三三二

P 499

各照

印權大僧都印覽

3.5

9P

弘安九年丙戌九月十六日於孝恩院以本所光明院之本一交

(與書)

9P

右筆華嚴宗末葉法印權大僧都宗性

夏藤四十二

年齡五十四

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

二校了 1448

函
号
冊

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

20

23

明本鈔 十一
84

冊子本 9
10

113
146
1

明本鈔 第十二

權大僧都宗性

後新蘭上

自所餘法

論又所說

共比他不定

他比違他

今觀後三

以他同為同

自他共九例

他比自不定

第四第六具二因故

兩俱不成四相違因

昭和
年
月
調

No.

1449

函
号
冊

二校了

P

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

8P
の但し本書ノ奥書ハ宗性自筆ニカ、ヒ
マタソノ要文ハ前書ト要事ナ

キヲミテ略ス、

昭和
年
月調

二校了P

9P

明本校

十三

冊子本

10

(年譜)

15

宗性上人関係資料集原稿

日本大学蔵本

124
36
13-12

但し表題及び序文に「宗性上人」の字あり、奥書に「前項三冊の故略」あり。

(奥書)

明本致士

6月

擬講隆慶

文永二年丑乙八月十八日時於東大寺鼓振住持房以尊勝陀印

本藏師許合書写畢願云永為吾寺重寶送4佛出世無有

敗損而已

同時昧以御本委細加交點了

執筆華嚴字擬講聖禪

年之十四

8P

年之十

蘭中

昭和
年
月
調

二校了

1451

P

函
号
册

9p
後新蘭下
若有兩俱不或及非其動勇由答
不定法自相並不
邊決自他共
南滅過性
二十七不或

明本抄第十三

擬造降度

表題

明本抄

十三

8p

0冊子本
9p

林屋本生藏本

124
36
13-5

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

昭和
年
月
調

No.

二校了

1452

P

9P

(本奥書) ↑ 65

因明之事、本無其功、隨又廢忘、今年春秋之內、聊加覆

寫、或若往日遺草、或有當時潤色、至十一月一日、如形終

篇、其間迷謬、失錯等、深雖恐冥顯、隨方清淨之志、

大明神可垂納受、病惱相續之內、未及再治耳、

建曆二年十二月二十三日 貞度記之

明本校第十三終

(本奥書) ↑ 65

7P

建長七年卯乙之月二十五日、時酉、於中川地藏院本堂馳筆畢、

昨日初預法勝寺、即人講證義、之即請自受無極、今朝又用東

大寺之門戶、喜悅有餘、於今者且為諸字之格古、且為二諦之

昭和 年 月 調

出立雖須將歸本寺學寫當山之居住染心困居之氣味甘口
 之內獨出此道場亦寫此卷了一部之書寫欲後以之為今生
 涯無双之思出多年之微功不空以之擬順次生得脫之良因
 此勤至非求名利其志併為證菩提也仰願當末導師弘勒為
 尊如藍本尊地藏菩薩伏乞獲因靈驗ハ憐大菩薩佛法擁護
 春日大明神同施難思之引授共通濟度之方便一期之終送
 都率天內殿三層之壇導薩華會道場奉諸祖師上人以決因
 明難義抑只今出當山為欲歸本房之內出跡於中川之秋
 水惟意於南谷之朝嵐後覽之輩可察其志矣

右筆華嚴字法印權大僧都字性

年於五十四

夏龍四十二

昭和 年 月 調

二校了

P

E 1454

函

号

册

(奥書)

下 0 127

5

10

(年譜)

15

宗性上人関係資料集原稿

20

25

34 長三年九月二十三日 晒 於 東大寺 尊勝院 中御堂 蒙 御許
拭老眼 馳筆了 雖 志願 舊 永 爲 吾 寺 之 重 寶 送 予 佛 出 世 無 有
敗 損 矣

擬講聖禪

歲之十
萌四十

8p

歲之十

萌四十

同日時處 以 御 本 朱 文 點 了

昭和
年
月
調

F 1455

P

函
号
册

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

10

15

20

25

永月三音中川地藏院二其書9枚

諸宗教肉梅義抄第二十一糾指

(奥書)

7P

○冊子本

113
18
22-24

建長七年乙卯六月二十五日

時

於中川地藏院本堂馳筆畢

昨日初預法勝寺脚八講澄義之即請自愛無任今朝又南

東大寺之門戶喜悅有餘於今者且為諸宗之總督古且為

二諦之立立雖須集歸本寺學寫當山之居住染心閑居之

氣味^甘之向猶由此直場亦寫此卷畢一部三書寫欲終

以之必令生涯無雙之思出而年之微功不空以之宛順次

生得脫之良因此勤全非求名利其志併為澄甚提也

○以下
欄筆

建長 七年六月二十五日

昭和 年 月 調

二校了

1456

P

明本欽相義契狀

(表題)

○冊子本

128
87
1

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

20

25

明本欽相義契狀

擬講隆慶

明本按一部十三卷被終書功候尤神效候日記一卷要目録一卷進候目六者雖為良筆之記注者上人之言談候於此物者大略一本候殊可有脚秘藏候御邊事雖為他寺他門自當初馴候芳志為勤不淺不輒仍深有所存奉仕屬候者也即步附之仁若非二明之法器者性善僧都許可被送遣候可背失師本意候故也病床在筆間不能委細之狀如件

昭和
年
月
調

5

10

15

20

25

連表七年十一月十一日

在御判

尊勝陀法印御房

奉解約 因明抄事

合明本抄三帖 因明論義抄三帖

右件書等者、失於明本抄者、依陀主上細御書、蒙御許

合書寫畢、因明結縁、理當思出、只在斯事、此条雖遲、多生

難奉報之、而遇身一期後、可讓進尊勝陀得業御房之由、蒙御

命之上、早可存其旨也、次於六卷、因明論義抄者、以別方便、雖

合書寫一期後、彼得業御房、可奉讓之由、同蒙御命之上、早任

御命、可奉讓進上、更不可有相違之狀、如件

二校了

P

1457

9P

昭和
年
月
調

二校了
P 1458

9P

文永五年十二月十九日 權律師聖禪判

此自光明院奉懷聖勝院印契狀自聖勝院讓預聖禪之日
尤可瞻彼印契狀可奉學重者也

文永三年五月廿五日 跡於東大寺鼓板佐房以光明院印自
筆狀書寫了 即一交

權律師 聖禪 歲六十六
蔭五十一 8+

都明本錄十三卷 彼印日記 并要目錄 筆印相美印契狀書
功今日今時滿足畢 因明結縁受頸歡喜滿胸恭敬
銘肝矣

此三通者 印書寫之後可念 區結候

昭和 年 月 調

二校了

P

1459

函
号
册

明本校日記

〇冊子本

全藏本

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

明本校十三卷相具目錄并日記性善僧都令付屬畢可
為堂中之秘要輒不可及外見且者上人御遺誠記錄顯然
者欲抑東大寺字性法印當寺定真得業者為耳末之內弟之
上兩宗之法燈也微功惟深懇志不淺之間歸德感志兩人共
令許與畢但各一期之後者速可被返性善之由面書契狀
賜之又慙慙被申約束了為向後存知記事由之狀如件

康元元年十二月二十五日

前權僧正

花柳

74

明本抄十三卷

上帙七卷
下帙六卷

8p

右抄者自解脫上人相傳之次第見于建曆遺詔良尊書誓

文康元置文筆凡當流二明聖教事往年載熟熟之趣獻讓狀

之處有不慮之子細今抄元讓與顯覺僧正畢此條本意相

違之間不合彼僧正而令御邊入室申定次第相兼且儀之處

僧正則出差諾狀畢受彼僧正元于性嘗去三月三日入

滅之間相具目錄并日記等直付屬隆遍權大僧都畢於今者

先考師事意一事無所殘尤可令自愛給與抑此書者八門之

明鏡三支之麗華也相兼不軌付屬撥仁且賞遍顯覺兩僧

正權室以前昇像正極位各勤勤取證誠性嘗亦追邂逅之芳

躡被聽道者之并務畢是則祖師上人無想清淨之志擁護

神靈隨喜納受之故欽然則云二明口者云文宗實自次第

即前途無其礙者也。乃向後存知記事由之狀如件。

永仁五年六月二十五日

前權僧正 花押

因明重書二本

一本吉祥院已講經
一本納言已講定算

已

此書籍依有所存。可令進上置一乘院大僧都御房之御方所也。三十箇日藏限以後。必乾經。實慶經。實等沙汰。急速

可令執進上之。抑同宿門弟中。令因明習學。至擇題筆位

必可令披見於此書籍者。其時者可被許一見由。申入院家

畢。縱雖申出。當要後者。不日可令返上之。雖一字一句不可

有書厚筆儀。若背此等遺命者。可蒙神明三寶證罰者也。

且此事所申入院家之狀。實託置之所也。

No.

二校了

1461

P

9P

昭和 年 月 調

二校了

1462

P

函
号
冊

○原本傍注日、

9p

以下三葉之契狀部以可知本校一乘院傳來之由來也、又包紙云一乘院
賞譽僧正ヨリ胤經律師（即許可狀賞譽即自筆即自判也）

○但し、大正藏云云ニハ、五〇六頁々照

8p

（年譜）

宗性上人關係資料集原稿

昭和
年
月
調

二校了

1463

P.50

9P

9P

建長六年十月十一日

由宗師釋其二十年中經文云五卅下分五上分爲二十年也
介者五上分結中掉举慢無明三種唯限上二界惑歟
限上二界惑也。下略

端書) 前項三全

由譬喻品中以四無畏對判四諦介者末師意一切皆無畏如何
對判四諦耶 答末師解釋雖不分明覺悟以道理思此事一
切皆無畏可對判道諦也。下略

建長六年土御内院即入講宗性同長俊諸師

(端書)

諸字疑由論義抄

三

建長三年

〇冊子本

113
18
22-21

十月十一日

土御内院即入講

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

二校了

1464

P 51

函
号
册

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

諸宗疑問論義草拔

九冊子本

(端書)

建長六年土御門院御人講宗性肉表俊法印

肉譬喻品疏中以四無畏對判四諦下今者末師意一切智無畏

并談法道無畏盡苦道無畏如何對判四諦耶下進云末師意

一切智無畏苦行盡苦道無畏道行下釋也下○下略

(端書)

建長六年土御門院御人講宗性肉表俊法印

肉譬喻品疏中以四無畏對判四諦下今者末師意一切智無畏如何

對判四諦耶下進云末師解釋意一切智無畏者苦諦下釋也

○下略

8P
17P

建長六年十月十一日

昭和 年 月 調

1465

函
号
冊

二校了

p52

十月二十九日

蓮勝院

法差別意許

法差別意許

表題

但し表紙表題欠

〇冊子本

124
338
1

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

写本日記云

本奥書

建長六年甲子十月廿九日酉時
東大寺蓮勝院中堂東廊

馳筆畢去九月晦日書始此卷
口後或為參勤土御門院

脚人講趣洛陽城或為聽甫維摩會
之決擇後明福寺

如此之事連々依計會當卷
〇鑑々及於時後學之輩宜

建長六年十月二十九日

昭和 年 月 日

二校了

1466

p53

函
号
册

諸講辨載

最勝金剛陀伽人講

原本校了

宗性上人関係資料原稿

20

25

諸字疑由論義抄

王

建長六年

〇冊子本

(端書)

113
17
22-21

建長六年最勝金剛陀伽人講字性由房源大僧都

9P

由提達摩多在今經會座預記別云義也

(端書)

〇前項ニ合

8P

由經文云復有學無學人千人得授記者文顯何事耶

學人千聲聞得授記者由佛說於他國土廣說此經云誓云文

意也

9P

庚辰 乙酉

是歲

昭和 32 年 5 月 24 日

二校了

E 1467

P 54

建長三年
是歲

昭和

32年5月調

9P 肉提波品疏記中引俱舍論說明五無間業相介者五無間業以
身諸二業為能歟 答以意業為能也。 〇下略 7P

9P 肉提波品中可說文殊授記耶 答可說之也。 〇下略 7P
(端書) 〇前項三合

7 建長三年成思院御入講字性由房源大僧都

(端書)

諸字疑肉論義按

建長三年

〇冊子本

113
18
22-20

〇成思院御入講

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

原本校了

1465

二校了

P 52

建永六年十月二十九日

昭和
年
月調

歌
号
冊

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

十月二十九日 尊勝院

下法差別意許ヲ按ス

法差別意許

○冊子本

124
338
1

表題

但し表紙表題欠す。

本與書

寫本日記

建長六年甲寅十月廿九日
時西
於東大寺蓮勝院中堂東所

馳筆畢去九月晦日書始此卷
口後或為參勤土御門院

脚人構趣洛陽城或為聽甫維摩會之決擇後明福寺

如此之事連々依計畫當卷〇匯々及乃今時後學之輩宜

二校了

912

令推察焉

仰願以此習10因明之微功必及值遇性之掌因矣

右筆華嚴字未字疏印權大僧都字性年五十三

新美田文信

○新美田

451
822
1

十月二十七日新美田文信

二校了

1468

函
号
册

P 55

建長元年

是歲

昭和 32 年 5 月 24 日 調

由摩訶迦葉一白一果人歟 答可有二義也

○下略

(端書) 前項三合

由中觀論文云雖復勤精進修行菩提道若失非佛性不應
得成佛文介者今此文可明正因佛性耶 答

○下略

建長元年弘誓院御八講字性肉定清法印

(端書)

諸字疑由海義按

○弘誓院御八講

建長元年 ○冊子本

113
18
22-21

(年譜)

宗性上人關係

原本校了

二校了

1469

P 56

建長元年

是歲

昭和

22年5月24日調

肉應身如來身無機者可說法耶

答不可說法也

○下略

(端書) ○前項三合

譬喻釋也

○下略

肉法花論意為對治無二乘增上慢執說何譬喻耶

答悅雲兩

建長元年久我八講字性肉長俊法印

(端書)

諸字疑肉論教四枚

建長元年

○冊子本

113
19
22-21

○久我八講

(三十一)

(年譜)

宗性上人傳集原稿

原本校了

二校了

1470

P 57

建長六年
是歲

昭和
年
月
調

[宗性上人研究会]

9p 由經云常處虛空為衆說法
未成道相如此云也
建長六年久我八講之時永源僧都奉之未用之
頭何事耶
進云說須菩提未

(端書)

9p 由經又付說三草二木譬今法花論意治無二乘上慢執時說
何譬可云耶
進云說雲雨譬
未

俊法印

建長六年久我八講之時永源僧都奉之即用之畢講師長

(端書)

諸字叙由論義本抄

九

建長六年

〇冊子本

113
19
7-8

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

(端書)
6p

9p 建長六年久我八講之時永源僧都等之未用之

2 由思惟惑障聖果一可云耶 進云思不障果 0下略

(端書)
6p

7p 建長六年久我八講之時靜明僧都等之未用之

9p 水無瀬殿御講山能向明禪答
法華以前諸經明法身觀耶

○中畧
7p

(端書)
6p

8p 建長六年久我八講之時靜明僧都等之即用之 講師長

俊法印

9p 廣治七 寅 水母永源向山禪山 7p

二校了

1471

P

昭和 年 月 調

二校了

1472

P

函
号
冊

(端書)

由以花果敷實喻習因報果方何
建長六年久我八講之時靜明僧都等之未用之

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

昭和
年
月
日

1473

二校了

P58

建長三年

是歲

昭和

32

年

5

26

月

調

9p 肉經又云汝等能於如來發隨喜心之所云如來者宗師如何釋之耶 答原師釋花嚴四大士法花身子也 下略 7p

9p 肉經又云於時下方多寶世尊又顯何事耶 答智積菩薩是下方多寶世尊所位云又意也 下略 7p (端書) 前項三合

7 建長三年清水谷大納言入道入講宗性由聖愚法印

(端書)

諸宗系肉海義按

8p

建長三年

○冊子本

113
18
22-21

○清水谷大納言入道入講

二校了

1474

P57

建長六年

是歲

昭和

32年5月

9P 肉内教意以空假二觀为方便入中道義可有耶 講答云内教
意事淺一人心三觀之旨故以空假二觀为方便入中道之義不
可許之也

端書 前項三合

9P 肉内觀音所現身中不孝菩薩身故字師如何釋之耶 講答云
○以下梅筆

端書

諸字疑肉論義故

建長六年

○冊子本

113
18
22-21

圓

○大宰權帥為經八構

原本交合

函
号
册

二校了

1475

P 60

建長六年

是歲

昭和

年

月
調

8p 建長六年大宰權帥為經八講之時、實嚴律師奉之、即用之、畢、講師智内法印、

9p 由經文列法音華三種陀羅尼、且以可義一釋法音方便、名義耶、進云疏十二、乃方便道、旌入中道第一義諦也、又下略

8p 建長六年大宰權帥為經八講之時、永源僧都奉之、即用之、畢、講師智内法印、

諸字疑由海義本抄

端書

建長六年

〇冊子本

113
19
98

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

二校了

1476

P 61

函
号
册

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

觀音現身說法中⁵ 不举并身¹⁰ 二何尺耶¹⁵ 答²⁰ 取樂云只
是文略^略

(端書)

建長六年大宰權師為經八講之時^{8p} 實^最律師^律奉之即用之^畢 講師智圓法印^印

(寶書)

自初^初 終^終 三觀也此義^三 不可有^可 欵^欵

建長六年大宰權師為經八講^{9p} 靜明僧都^靜 由房源大僧都之^由 論義也^論 而此論義相尋由者之處後日所注送之本也^也

建長六年 是歲

昭和 年 月 調

二校了

1477

P 62

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

原本多々

○松尾山莊八講

諸字疑向論義抄

(三十一) 8P

建長六年

○冊子本

113
18
22-21

(端書)

建長六年松尾山莊八講字性肉經海法師

9P 向法花論意以提婆品龍女即身成佛可立勝妙力無上耶
答見論文勝妙力無上之中不取提婆品龍女即身成佛也

(端書) 前項三合

9P 向安身行品疏中釋空觀義云如虛空無入無出無住相又
介者唯引智論說次答效身大師引智論并撰大乘論說釋
也(下略)

建長六年 是歲

昭和 32年5月調

二校了 1478

P 63

函
号
冊

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

諸字疑由論義本抄

建長三年

〇冊子本

113
19
9-9

建長六年松尾山莊八講之時永源僧都奉之即用之畢

講師經海法印

因法花論意立七喻三平葦十無上諸通一經諸品給介者其

中以今品龍文即身成佛立勝效力無上耶答見論文勝效

力無上取龍文即成不見

(端書)

建長之年松尾山莊八講之時永源僧都奉之即用之畢講

師經海法印

貞應三年法勝并智山向賴兼

建長三年
是歲

昭和
年
月
調

二校了 1479

問^{9p} 宗師或處釋空觀義引如虛空無入無出無住相等又然者
是、唯引智論說歟 進可、故集大師判此事引智論并提
大乘論也。下略

昭和
年
月
日

1480

二校了

P 64

建長六年

是歲

昭和

32

年

5

月

調

肉依弄命經威力近衆同分義可有耶

答可有此義也

○下略

(端書)前項三合訓

聖俱有三受者

又○下略

介者妙身大師如何釋之耶

進云妙身大師釋云十七云

肉勤持品疏中引婆沙論第十七卷云

建長六年西宮八講宗性肉經海珠印

諸字疑肉滿義按

三士

建長六年

○冊子本

113
18
22-21

二校了

1481

P.65

函
号
冊

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

20

25

諸字疑肉滿義本抄

九

○冊子本

113
19
9-8

端書

建長六年

建長六年西宮八講之時永源僧都奉之即用之畢

講師

經海法印

建長四年寂勝講公禪肉字澄

肉字師或處引婆娑論第十七卷自聖具苦身捨三受又介者

如身大師如何釋之耶進云妙果釋此事第十卷有此文判

○下略

(與書)

建長六年七月十三日罷白永源僧都白川住房披見文帳

之次尋取此狀畢

建長六年

是歲

昭和 年 月 調

二校了

P 67

E 1482

函
号
冊

○贈皇太后宮卿人講

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

原本交合了

諸字疑由滿義抄

(三十一) 8P

建長六年

○冊子本

113
18
22-21

(端書)

建長六年贈皇太后宮卿人講 宗性由智圓清印

9P 由經又付說疾或菩提相且山家大師意三藏教非大真直故如

何釋之耶

講答云

○次下摘事

(端書) 〇前項三合

9P 由山家大師釋并演宣說十二因縁經文中方華般若後教也見

尔者方華般若時說別圓十二因縁顯露後教

講答云

建長六年是歲

昭和

32年5月25日

二校了

1483

P 68

函

号

冊

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

15

20

25

建長六年八月八日

諸原親向論義本抄

113
19
9-8

建長六年八月八日

諸原親向論義本抄

建長六年

冊子本

113
19
9-8

多圃持國二天殊有護世誓願事

○中畧

(與書)

建長六年贈皇太后宮卿八講之時
智月法印所勅送之本

也

建長六年

是歲

昭和 年 月 日

二校了

1484

P 69

建長三年

是歲

昭和

年

月調

函
号
冊

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

(端書)

8P

一校了

建長六年贈皇太后宮卿人講永源問性譽僧都之論義也

由經文令顛倒衆生雖近而不見又今者雖近而不見觀者解

釋如何判之耶

進云諸如神道隱令不見

(端書)

同時疑之事

由或大乘經中若有能若無能若非有能若非無能今者法廣為

巨三界衆生將如何進云解尺限上三無色又金剛般若疏尺

(與書)

建長六年七月之比永源僧都所勸送之本也

原本欠了

○藤原顯氏八講

諸字彙肉論義授

主 建長六年 ○冊子本

113
18
22-24

端書

建長六年藤三品顯氏八講宗性肉智丹法印

圓

肉經文付說舍利弗尊者授記作佛相且舍利弗尊者獨覺種姓

人歟 講卷云

○以下桐筆

端書 ○前項三全

肉信解品末師解脫中明三解脫門十智相提介者空解脫門終

智所提耶

講卷云空謂空非我者性相之所定也故空解脫門可法類苦

三智所提也但首瞿師解釋依瑜伽論意空解脫門八智所提

釋也

建長六年

是歲

昭和 32 年 1 月 調

二校了

1486

P 71

建長六年 是歲

昭和 年 月 調

[宗性上人研究会]

頭
号
冊

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

20

25

○藤原家八講

諸宗疑肉論義按

三一

建長六年

○冊子本

113
18
22-24

(端書)

建長六年 民部卿家八講 宗性肉房源法印

肉譬喻品末師解釋中付明中忍位減緣減行相且中為滿心一行二判那心者七周減緣二十四周減行內歟 答可有二意

也。下略

(端書)

○前項三合

肉譬喻品疏中云欲界貪末未定已斷又今者如某大師如何釋之耶 答妙某大師釋性障未除名伏為斷也。下略

二校了

L 1487

172

函
号
册

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

10

15

20

25

(端書)

○前項ニ合い

5

肉身量品疏中付明釋尊超劫相且出曜經中可說釋尊超九劫

旨耶

答經又雖不分明解釋介判也

○下略

(端書)

○前項ニ合い

○下略

肉圓教意十住位人相作佛者出何經論耶 答教皇大師釋唯

唯華嚴起信彰灼明文十住人相也

○下略

建表云年足歲

昭和

年

月調

二校了

1488

P 73

肉9P内6教十住位人相作佛10云者出何經論耶11進云6妙華大師出
花嚴起信論釋1下略7P

建長二年

是歲

昭和

年

月
調

建長二年8P民部卿為家八講之時信永法印奉之即用之畢6
講師房源法印6

端書

建長二年9P民部卿為家八講之時信永法印奉之未用之6
因經文物本行菩薩8P道6所成奉命今猶未盡又今所云奉命
分6報命坎為當報土惠命坎6進云6分段報命釋也10下略

端書

諸字疑向滿義本抄

建長二年8P

〇冊子本15

113
19
9-8

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

二校了

1489

P 74

建長六年

是歲

昭和 年 月 日

國
号
冊

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

25

○吉祥院八講

10 P

諸宗疑由論義抄

建長六年

○冊子本

113
18
22-21

(端書)

建長六年吉祥院八講宗性向智月請印

圓

向經文付列同庫衆且羅云尊者有學聖者歟 答羅云尊者可

云無學聖者也

(端書)

○前項三合

向經文云肩向光明照于東方 又云今者肩向光明白色歟 答

○以下抄筆

二校了

1490

P175

建長六年

是歲

昭和

年

月
調

9p
由付因明門不定相違過可相並耶
文
○下略
7p

進云大疏云必無不定及

9p
由經文。且無色界心可緣下地能治類智品道耶。進云淨影
大師釋云無色心微不能緣下有漏法故亦不緣下有漏對治
文
○下略
6p
(端書) 〇前項三念

建長六年法華會初座宗性向光善擬講

(端書)

諸字疑由論義校

手

建長六年

〇冊子本

113
18
22-21

〇法華會

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

函
号
冊

二校了

1491

P

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

15

20

25

建長七年(1175)二月

五十二

二月上旬知足院別所ニテ華嚴經感應要文抄ヲ抄入

華嚴經感應要文抄

○冊子本

113
94
1

(表題)

(奥書)

華嚴經感應要文抄

權大僧都字性

建長七年之春二月上旬之候於東大寺知足院別所之中故

實弘法師之菴室抄出華嚴經普賢行願品別行疏下卷并隨

疏義記第五卷要文之時所書損之本也然而為備後日之損

見悉作一帖之雙紙畢南門跡相承之輩必可哀此厚志矣

右筆華嚴字未華法印字性

年齡五十四

僧臘四十二

末

建長七年二月上旬日

昭和 年 月 調

二校了

1492

P

9P

七月三日

法勝寺師八講ニ参ス

法勝寺師八講内答記

十三

冊子本

113

27

1743

建長七年法勝寺師八講内答記

式目如例

上卿 右大將公親

奉行

左少升雅言

物在方

威儀師清紹

第二日外
用代官畢

公文從儀師寛賢

立圖目共用
代官畢

證義者

法印權大僧都宗性

初東

長俊初

講師

宗性

長俊

尊賢

權少僧都賢縁

三

玄雅

賞増

雪注

權律師澄祐

尊俊

大法師房盛

經

建長七年 七月三日

昭和 年 月 日

二校了

1493

P

9P

聽衆

弁玄

新興 17P

尊愚

三興 17P

実譽

新東 17P

隆深

新寺 17P

実修

新興 17P

憲実

新山 17P

顯舜

新寺 17P

憲信

新山 17P

憲家

新山 17P

定基

新東 17P

本請辞退

證義者

權僧正良盛

法印權大僧都信承

講師

法印權大僧都定房

權大僧都性善

權少僧都承源

權律師定圓

聽衆

頼愉

連長七年七月三日

昭和

年

月調

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

二校了

1494

P

9p

願請

澄義者

宗性

長俊

講師

尊賢

玄雅

澄祐

聽衆

運信

初日朝座講師宗性

向者隆深在表白

肉經文。華嚴經中云初發心時便成正覺。尔者究竟果滿成

道歟。答華嚴經意談事々融通之旨故因果二位相即融通

初發心住便皆究竟果滿成道云也。下略

向宗家意二集聖者直可悟別教一乘耶

答二集聖者其根狹劣也別教一乘其說甚奧故直不能悟

入也。下略

建長七年七月三日

昭和 年 月 調

二校了

P

1495

9P

行者

願

凡

法印權大僧都宗性

三礼大法師房盛

全角

公卿

按察使

良教

二条中納言資季

堀川宰相

吉田宰相伊賴

暮座講師尊賢

内者尊賢

兩尊賢

今日卿幸右大臣已下公卿十一人頭中將已下殿上

人二十人供奉

已

建長七年七月三日

昭和 年 月 調

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

函
号
冊

二校了

1496

P

9P

建長七年 七月三日

朝座講師澄祐	朝座講師賢象
同者頭辨	同者憲康
朝座講師雲經	朝座講師玄雅
同者庚修	同者憲信
朝座講師覺増	
同者実蒼	
第四日	第三日
	第二日

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

昭和 年 月 調

函
号
册

二校了

1497

P

建武七年七月三日

日供養法

法印權大僧都長俊

例時調声

大律師屬家

二系中納言資季

左京大夫行家

公卿

京

兎願

法印權大僧都宗性

三乳大律師房盛

行香

例也

就中講答明々也仍金

全角

9p

暮座講師長俊

向者并玄

朝座講師房盛

向者屬家

第五日

暮座講師長俊

向者室基

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

20

23

1498

二校了

建長七年七月三日

昭和 年 月 日

○中畧

法勝寺御一講

諸御願已出華嚴宗論義抄

建長七年

初日 朝座 講師 法印 權大僧都 宗性

内着 隆深

七月四日 戊戌

上皇御幸 法勝寺 依御入講也

百鍊抄

問答一要文ハコレヲ略ス。マタ

○但ニ法勝寺御入講内答記(1138p) 日本書紀

御布施

ト要ハトコロハ 〇ヲ以テ示ス

○但ニ内答一要又ハ法勝寺御入講内答記十三(11327p)ト畧ニナキヲ以テ略ス

自永保三年夏 至文治三年夏

○冊子本

113
17
1

1499

二校了

P

函
号
册

是月

導勝院

超越證

三賢抄ヲ抄ス

超越證
三賢抄

〇冊子本

113
93
1

(表題)

超越證 三賢抄

權大僧都宗性

(興書)

建永元年寫勝院信定内性并

建長七年中秋之候於東大寺導勝院中堂東廊寫之畢云

夏之北東南院々主殿得業聖筆被抄禁裏最勝講聽衆之時

必彼叙内用意天台宗論義而三条爲宗性之口入被尋仰近

曆寺智印法印之時以彼法印所借進之本所書寫之也後覽

之輩可哀其志矣殿得業似有子細對明福善覺緣僧都被内

答之内此論義不被用之止畢便宜之時尤可疑之者歟

右筆華嚴宗末葉法印權大僧都宗性

建長七年八月 日

昭和 年 月 調

1498

二校了

建長 七年 七月 三日

昭和 年 月 日

○中畧

法勝寺御八講

諸御願已出華嚴宗論義抄

建長七年

初日 朝座講師 法印權大僧都宗性

向者 隆聚

○冊子本

113
17
1

自永保三年夏
至文永三年夏

8p

七月四日戌戌

上皇御幸法勝寺依御八講也

百鍊抄

問答一要又ハコレヲ略スマタ

○但ニ法勝寺御八講問答記(1138p)ヲ参考ス

御布施

上巻トコロノ
ウヲ以テ示ス

○但ニ問答一要又ハ法勝寺御八講問答記十三(1137p)ト異ルヲ以テ略ス

8p

傳 除心院庚白記 匠衛家譜参照

28p

○ 無平本

三十一

○ 傳 除心院庚白記 匠衛家譜参照

1499

二校了

函
号
冊

是月

2P

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

25

導勝院ニテ超越證三賢抄ヲ抄ス

超越證三賢抄

○冊子本

113
93
1

(表題)

花

超越證三賢抄

權大僧都宗性

(興書)

(端書)

建永三年(1254)寫勝院信定内性并

建長七年中秋之候於東大寺導勝院中堂東廊寫之畢去中

夏之北東南院々主殿得業聖筆被參考禁裏最勝講聽衆之時

必彼疑問用意天台字論義而三条必宗性之口入被尋仰延

曆寺智印法印之時以彼法印所借進之本所書寫之也後覽

之輩可哀其志矣殿得業似有子細對興福寺覺緣僧都被問

答之內此論義不被用之止畢便宜之時尤可疑之者歟

右筆華嚴宗末筆法印權大僧都宗性

建長七年八月日

昭和 年 月 日

海
部
十
一
ノ

1500

二校了

P

函
号
冊

建長
七年八月
日

5

10

(年譜)

15

宗性上人關係資料集原稿

20

25

昭和
年
月
調

4p
年齢五十四
夏龍四十二

二校了

1501

P

9p

函

号

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

25

諸講雜載

康長七年

○腹最勝講

諸師願已出華嚴宗論義抄上

自永保庫
至文永五年

○冊子本

113
17

康長七年

初日

朝座講師法印權大僧都宗性

因者法印權大僧都經海

向字師明乾惠等十地相今者以佛果不立十地外故如何狀之

耶

進云香象大師狀之以二乘人於現身上得

聖果故不在後世又下略

向瑜伽論意畢告三歲香味二塵可通上二界耶答香象大師

通上二界祇也下略

康長七年

是歲

昭和

年

月調

二校了 1502

P

建長七年

是歲

昭和

年

月 調

(端書)

建長七年仙洞寂勝講之時智円法印所勘送之本也

○中書

勘送也

(奥書)

建長七年仙洞寂勝講之時興福寺權別當僧正良盛所

諸字疑肉論義本校

自建長七年
至同八年

○冊子本

113
19
9-9

宗性上人關係資料集原稿

二校了

1503

P

函

号

册

(年譜)

宗性上人関修
校集原稿

校了

25

○限番悔義 10P

諸字疑肉論義本校 10P

○冊子本 9P

113
19
9-9

(端書) ↑ 6号

建長七年仙洞番論義之時定圓律師等之末用之

肉所當妙皇大師解尺中依毗曇俱舍論說判四念處觀相見

且法念處身云何尺給

進云一切有為。一切有漏。

及一切法。除此三外自餘一切皆法念智悔判也

○下略

昭和
年
月
調

二校了

P

建長七年

日正歲

昭和

年

月調

心之人謂四隔併略皮諸花已前四教初心之人可作俱四相隔思耶進云尺可初

固不ニノ聲聞皆可云内秘外現聲聞耶。
 具有退大應化及主住等ニ下略。
 (端書)ノ前項ニ全い。

講師 岡 琢 郎

建長七年三月廿四誓院人講之時レ智田所印拳之即用之畢

端書

諸字疑向滿義本按

① 84

自庚辰七月
至同八年

○冊子本

113
19
9-9

○ 弘誓院人講

卷	第	冊
一	十	一

(年譜)

宗性上人關係資料集原稿

〔宗性上人研究会〕

二校了

1505

P

函

号

冊

(年譜)

宗性上人關係資料

二校了

25

諸字疑由論義本校

(端書)

○吉田為經八講

自建長七年
至同年

○冊子本

113
19
9-9

建長七年吉田大宰權師為經人講之時、實嚴僧却拳之

未用之

建曆三 法 隆田 道澄問

勝曼經中阿羅漢辟支佛及大力并隨不思議變易生死

介其中并者方便大并歟 答口任方便大并也 下略

(與書)

同年松尾山庄八講字性對智圓法印肉之畢

圓

建長七年

是歲

昭和

年

月調

(端書)

8p 建長七年吉田大室權師受經入講之時實最會都峯三郎
 用之畢 講師智圓法印

9p 建保三最 聖雅 尊良由
 但解脱西維漢得三明一可三耶

答得欵

下略

函
号
冊

1507

二校了

P

建表
七年

是
歳

昭和
年
月
日

8p
6p

○但し内巻ノ要又ハ松吉田名經人講ノ条ノ「大力并」ト是事ナキ
ヲ以テ略ス

8p

同年松尾山莊八講字性対智内法印向之畢

端事

諸字疑肉論義本抄

10p

自建表七年
至同八年

○冊子本

113
19
4-9

○松尾山莊八講

8p

(年譜)

宗性上人關係資料

一校了

二校了

1508

函
号
册

(年譜)

宗性上人関係資料集

一校了

25

建長七年

是歲

昭和

年

月

調

9P
肉經又云「評般若花嚴海空」
耶
卷山家大師尺此事文遍圓五時入法界義名爲花嚴

端書
建長七年贈皇太后宮御八講之時
由用之故也
8P
不用之已前

9P
由講讀無量義經者四融三諦撰也云耶
撰之申或又不分義意可有之
下略
17P
房源
已

8P
畢
講師智田法印
建長七年贈皇太后宮御八講之時
房源法印奉之即用之

諸宗疑由論義本抄
贈皇太后宮御八講
自建長七年
至同八年
〇冊子本
113
17
9-9

(端書) 海印三昧名爲海空^{8p}故不可別^{11p}手^{11p}屬^{11p}一經^{11p}。下略

(8p) 建長七年贈皇太后宮中人講之時^{11p}房源法印奉之即用之畢^{11p}
講師智圓法印^{11p}

(9p) 因^{11p}前佛後佛自受用爲一名實耶^{11p} 答^{11p}前佛後佛口自受用其骸^{11p}
一也^{11p}可申^{11p}。下略^{11p}
(端書)

(8p) 建長七年贈皇太后宮中人講之時^{11p}智圓法印奉之即用智圓法^{11p}
印對字性由之畢^{11p}
因^{11p}入法花三昧談今經耶^{11p}。下略^{11p}

1510

二校了

建長七年

足利

昭和 年 月 日

由經文從三昧安祥而起
無量義定可云耶
所云三昧者唯限法花三昧歟當通

講師信義清印

建長七年藤三品顯氏八講之時定四律師等之即用之畢
諸宗疑問論義本抄
藤原顯氏八講
自建長七年
至同年
冊子本
113
19
7-9

順 号 冊 (年譜) 宗性上人關係資料集原稿

